

# Gunze CSR報告書2006

**GUNZE**

# 会社概要

## ■創業

明治29年(1896年)8月10日

## ■代表者

取締役社長 小谷 茂雄

## ■資本金

261億円

## ■従業員数

2,431名(単体)  
8,336名(連結合計)

## ■上場証券取引所

東京証券取引所、大阪証券取引所

## ■事業所

### ●本店

〒623-8511  
京都府綾部市青野町膳所1番地  
TEL(0773)42-3181 FAX(0773)42-6266

### ●大阪本社

〒530-0001  
大阪市北区梅田1丁目8番17号 大阪第一生命ビル  
TEL(06)6348-1313 FAX(06)6348-4815

### ●東京支社

〒103-0027  
東京都中央区日本橋2丁目10番4号 グンゼ日本橋ビル  
TEL(03)3276-8710 FAX(03)3276-8729

## ■関係会社(連結対象会社)

●2006年6月現在

### ●アパレル事業

東北グンゼ(株)、出雲アパレル(有)、福知山アパレル(有)  
倉吉グンゼ(株)、大連坤姿時装有限公司  
Thai Gunze Co., Ltd.、Gunze (Vietnam) Co., Ltd.  
済南冠世時装有限公司、九州グンゼ(株)、兵庫グンゼ(株)  
P.T. Gunze Socks Indonesia  
(株)グンゼオフィスサービス、グンゼ物流(株)  
公冠グンゼ(株)、加賀グンゼ(株)、(株)ルフラン  
中央繊維資材(株)、津山グンゼ(株)  
P.T. Gunze Indonesia、上海郡是通虹繊維有限公司

### ●機能ソリューション事業

福島プラスチック(株)、グンゼ包装システム(株)  
郡是高分子工業(株)  
Gunze Plastics & Engineering Corporation of Europe N.V.  
Gunze Plastics & Engineering Corporation of America  
上海郡是高分子材料有限公司、上海郡是新塑材有限公司  
上海郡是新包装有限公司、エルマ(株)  
Gunze Electronics U.S.A. Corp.  
GGI Technology Ltd.、綾部エンブラ(株)

### ●ライフクリエイト事業

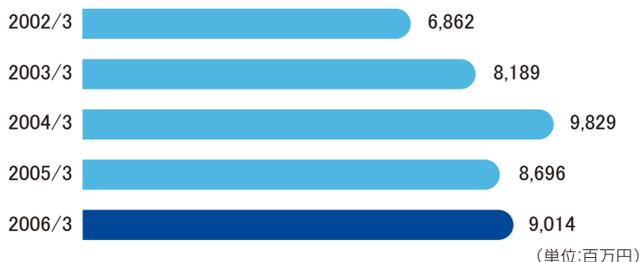
グンゼ開発(株)、(株)つかしんタウンクリエイト  
グンゼグリーン(株)、グンゼスポーツ(株)

## ■連結業績

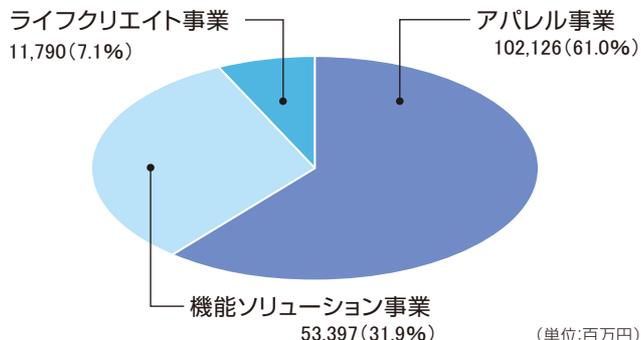
### ●売上高推移



### ●営業利益推移



### ●事業セグメント別売上高



- ( )は構成比を表す。
- 上記セグメント別売上高は、セグメント間で発生した売上高を調整する前の数値です。

### ●アパレル事業(消費財)

- メンズ&キッズインナー ●レディスインナー ●ストッキング & ソックス ●ハウスカジュアル(ホームウェア、ナイトウェア)
- 繊維資材(工業用ミシン糸、産業資材)
- その他(婦人服、アウターウェア、ベビーウェア、テキスタイル、絹織物)

### ●機能ソリューション事業(生産財)

- プラスチックフィルム(ペットボトル用熱収縮ラベルなど)
- エンジニアリングプラスチック(複写機・プリンター等の部材)
- 電子部品(タッチパネルなど)
- メディカル材料(吸収性縫合糸、人工真皮、吸収性骨接合材など)
- メカトロ(印刷周辺省力機器など)

### ●ライフクリエイト事業(サービス等)

- フィットネスクラブの運営
- グリーン事業(樹木・花卉販売、屋上緑化など)
- 温浴(つかしん天然温泉「湯の華廊」) ●エステイト(不動産の賃貸など)
- エンジニアリング(省エネ事業など)
- デベロッパ(商業施設の運営)

# INDEX

会社概要	1
編集にあたって	2
トップインタビュー	3

## ハイライト

創業110年を振り返って	5
--------------	---

## CSRの取り組み

企業理念とCSR経営	7
2005年度の主な取り組み	9
ステークホルダー満足度の向上を目指して	11

## 社会性報告

消費者への責任	13
従業員とともに	15
社会貢献活動	17

## 環境報告

環境方針と環境マネジメントシステム	19
事業活動にともなう環境影響と環境会計	21
環境負荷低減への取り組み	23

地球・社会と企業の共存共栄を目指した商品・サービスの提供	27
第三者意見書	29

## 編集にあたって

- 本報告書はグンゼグループのCSR活動の取り組み内容を開示し、ステークホルダーの皆さまからご意見をいただき、より一層の取り組みの向上につなげることを目的に発行しています。
- 実績データは2005年度分(2005年4月1日～2006年3月31日)を記載していますが、活動内容については一部上記期間以前もしくは以後直近のものを含んでいます。
- 対象範囲はグンゼ株式会社と国内外の関係会社(連結・非連結含む58社)を対象にしています。
- 作成にあたってはGRI(Global Reporting Initiative)の「2002年版持続可能性報告のガイドライン」を参考にしています。
- 関連する情報が記載された本報告書のページを📖マーク、関連情報、詳細情報等を掲載したホームページのURLを🌐マークで示しています。
- 本報告書はグンゼホームページでもご覧いただけます。(2006年7月掲載予定)

グンゼホームページのURL <http://www.gunze.co.jp/>

- 昨年の読者アンケートでいただいたご意見をできるだけ反映し、幅広い読者の皆さまに容易にご理解いただけるよう(1)内容については、できていること、できなかったことを的確に記載すること、(2)一目でわかりやすいビジュアル表現、(3)専門用語には注釈を入れるなど、わかりやすい内容、(4)目にもやさしい配色などを心がけました。

報告書アンケート調査まとめより:1,158名から回答

●わかりやすさ	●読みやすさ
大変わかりやすい ..... 87	大変読みやすい ..... 66
わかりやすい ..... 533	読みやすい ..... 448
普通 ..... 448	普通 ..... 550
わかりにくい ..... 72	読みにくい ..... 71
未記入 ..... 18	未記入 ..... 23
●内容について	●関心記事(複数回答)
大変充実している ..... 118	トップメッセージ ..... 208
充実している ..... 545	企業理念 ..... 534
普通 ..... 463	経済性報告 ..... 385
もの足りない ..... 15	社会性報告 ..... 1
未記入 ..... 17	環境報告 ..... 1
	未記入 ..... 31

## トップインタビュー

創業110年の歴史の中で「人間尊重、優良品の生産、共存共栄」は、グンゼの経営理念として生きてきました。時代とともに変えていかなければならないものは何か。変えてはならないものは何か。小谷茂雄社長に、グンゼのCSRについての考え方と実践について聞きました。



取締役社長 小谷茂雄

# 「不易流行」で地球・社会と企業の持続的発展を目指します。

## 創業の理念がCSR活動の原点

——グンゼが考える企業の社会的責任(CSR)とは何ですか？

創業の理念を基礎として、当社への期待に対して敏感に、そして柔軟に応えることです。

当社は今年110周年を迎えます。創業者、波多野鶴吉の創業の理念である「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」は諸先輩から脈々と受け継がれ、当社のCSR活動の原点となっています。当社の社歌には創業当時の事業である絹織物の優良品の生産を謳った、「経

糸緯糸、ひとすじ乱れず」というくだりがあります。創業の理念は決して変えてはならない当社の「不易(経糸)」となるものです。

一方で、私たちを取り巻く環境は常に変化しており、世の中が高度化し、成熟するに従い、ステークホルダーの価値観や当社への期待、要望も変化し続けています。私たちは、適時的確な情報開示や相互コミュニケーションを通じて、これらの変化を敏感に察知し、「流行(緯糸)」で柔軟かつ積極的に改革、改善に挑戦し、当社に期待される責任を果たしていきます。また、CSR推進を自社内の取り組みにとどめず、国内外の取引先やサプライヤーとともに高い倫理観に基づくコンプライアンス経営の実践を推進することで持続的な共存共栄を目指します。

ともすると不易をおろそかにし、流行ばかりを追いかけがちになりますが、不易は理念、流行は改革・改善として2つを両立させることが重要です。

## 企業として果たすべき責任

——グンゼでは、CSRへの取り組みをどのように推進していますか？

私たちがCSRを推進する目的には、地球、社会、そして私たち企業の持続的な発展向上があります。中でも次の5つの取り組みが重要であると考えています。

第一に、私たちのかけがえのない地球環境に対しては、事業活動が環境にどれだけ影響しているかを一人ひとりが認識した上で、CO<sub>2</sub>削減をはじめとする環境負荷低減の取り組みなどにより「環境アクションプラン2007」\*1の達成を目指します。

第二に、消費者に対しては、社是の第一項目である優良品、サービスの提供に徹すること。「売って喜び、買って喜び」を実践することで。品質を第一義に安全、安心、快適、満足を

追求し、その上で地球環境や人にやさしい商品、サービスを開発、提供することで、より快適な未来を目指し、たゆまぬ努力を続けます。

第三に、この役割を実践する立場である構成員に対しては、人間尊重を基盤とし、適材適所、多様性を発揮できる能力開発の推進により、社会に貢献できる人財を育成します。

第四に、地域社会ですが、そもそも地域社会への貢献は、グンゼの「是」<sup>\*2</sup>、創業の精神の実践という位置づけがあります。企業市民としての責任を果たすとともに、構成員による積極的な社会貢献活動を通じて社会と友好な関係を築きます。2006年度は110周年記念の社会貢献制度として「グンゼラブアース倶楽部」<sup>\*3</sup>を立ち上げ、今後もより一層、社会貢献活動に参画、推進できるよう、運営していきます。

最後に、株主に対しては、前述の4つの責任について全構成員が共有し、実践することで、企業価値を高めていきます。頭で理解するだけでなく、一人ひとりが行動につなげていくことが重要だと思えます。

こうした取り組みを戦略的に推進する部署として2004年度にCSR推進室を設置し、2005年度は全構成員に対し、CSRへの理解を深める活動を行いました。今年も、各事業部門のCSR委員会の立ち上げと運用で、コンプライアンス経営を徹底し、より高い倫理観をもってグンゼ行動規範を実践します。

## 消費者に信頼されるものづくりを徹底

——グンゼ中期経営計画「3C10計画」の進捗状況はどうですか？

2005年度より「夢を成果へ 驚きを創造へ 感動を未来へ」のスローガンの下、「事業構造改革」「攻めの経営による事業拡大」「コーポレートブランドロイヤルティの向上」「人

財の育成」を基本戦略として積極的に「3C10計画（顧客起点の事業創造と成長と効率の追求）」を推進しています。その結果、繊維部門のカテゴリークリエイト、非繊維事業の拡大を実現し、海外現地販売やコストダウンなどで計画を上回る実績をあげることができました。その反面、基盤としての品質管理の強化対応が不十分であったこと、新業態・新規分野の開拓を含め環境変化への対応が不足したこと、ロスを発生させない仕組みづくり（SCMシステム）が遅れていることが主な反省点です。

また、昨年はサーモコントロールインナー商品等の重大クレームを引き起こし、消費者、取引先の皆さまに多大なご迷惑をおかけしました。真の原因を究明し、今一度創業の精神に立ち返り、二度とこのようなクレームを起こさないよう品質保証体制を強化し、消費者に信頼されるものづくりに徹します。

## 不易と流行の両立で持続的発展を目指す

CSRとは、何か特別なことに取り組むということではなく、全構成員が法令遵守を基本に高い倫理観のもと、通常業務のなかに組み入れ、グンゼ行動規範の実践を通じて、持続可能な企業、そして社会に変革することです。

変わらない真理（不易）とその時々の新風（流行）を両立させながら、一所懸命のまじめさと、改革へ挑戦し続けることへの楽しさで、当社を取り巻くすべてのステークホルダーと協働し、「夢を成果へ 驚きを創造へ 感動を未来へ」をキャッチフレーズに、社会的責任を果たしてまいります。

\*小谷茂雄は、2006年6月29日付けで代表取締役会長に就任いたしました。

### ※1 環境アクションプラン2007

当社が定めた環境負荷低減のための指標。

 P.19

### ※2 グンゼの「是」

グンゼは110年前、京都の何鹿郡いかりがきの地場産業である蚕糸業の振興を目指した「郡（何鹿郡）のため（是）になる会社」、郡是製絲株式会社として、波多野鶴吉が起業。

### ※3 グンゼラブアース倶楽部

110周年記念事業として設置した社会貢献推進制度。

 P.18

グンゼの歩みは、1896年(明治29年)、創業者・波多野鶴吉が京都府何鹿郡の地場産業であった蚕糸業の振興を会社設立の趣旨として、「地域社会との共存共栄」を目指して郡是製絲株式会社を興したことに始まります。変えてはならない創業の理念を経糸に、私たちに對する社会の期待に柔軟に応えることを緯糸に、社会と企業の持続的発展を目指し、織りなしてきた110年の歩みを振り返ってみました。

●経糸と緯糸

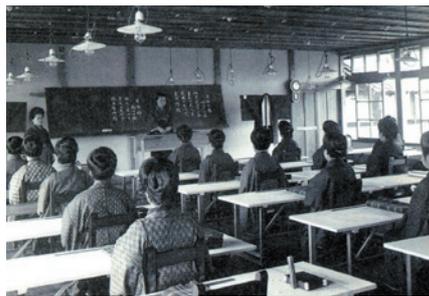
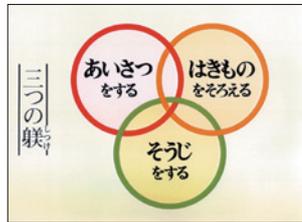
織物は、経糸と緯糸で構成される。経糸は織物の端から端まで縦につながり、いつまでも変わらない糸である。緯糸は経糸に絡まって織物の柄を形成する。経糸には節など一切ない優良糸が、緯糸には普通糸が使われる。日本の大半の製糸家は大量生産に重点をおいていたが、波多野鶴吉はあくまでも経糸として選ばれる「精良優美な優良品の生産」を貫いた。

表から見れば工場、裏から見れば学校

人財育成

創業当時から産業振興とともに農村地域の雇用機会の創出と教育の場の提供に注力し、地域社会、取引先などから「グンゼは表から見れば工場、裏から見れば学校」と呼ばれるようになりました。単に優良品を生産する手段としての教育ではなく、企業の利害を超え、従業員が一生涯幸せになるよう導くことを理念としていました。1917年(大正6年)には郡是女学校を設立。教養課程も設け、従業員は仕事に、勉強に励みました。特に「三つの躰」の徹底で、独自の社風を育て上げました。この「三つの躰」は現在でも変わらぬ経糸として受け継がれ、私たちの倫理観の礎となっています。

●人財…人は財産の意

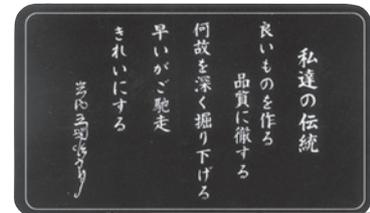


郡是女学校の和裁授業風景

金の品質、銀の価格

品質第一

当社の生糸輸出は50年続いていましたが、戦後台頭してきたナイロンに蚕糸業は押され、1947年、メリヤス事業に参入します。当時は編立、染・晒、縫製の各工程は分業が常識であったところを、「一貫生産方式でやるべき」(初代事業部長・岩内菊治郎)との考えに基づいた画期的な生産体制で「優良品の生産」に努めました。良い糸を使い、無キズの生地を編む技術を追求。晒は綿の風合いを損なわない白さの限界を求め、縫製はきれいな縫い目をそろえることに徹しました。販売店や資材メーカーと一丸となって最高の品質を目指し、共存共栄を実現しました。その結果、一般の肌着より高価であるにもかかわらず、優れた品質が評価され、「金の品質、銀の価格」を標榜したグンゼ肌着は全国に定着していきましました。「品質のグンゼ」の伝統もまた、決して変えてはならぬ経糸です。



私達はこの伝統を継承していきます

- 1 良いものを作る品質に徹する  
・この一針で最大の顧客を獲得する  
 ・金の品質、銀の価格  
 ・いくら多量に生産しても買ってくれる人は一枚ずつである
- 2 何故を深く掘り下げる  
・「なぜ」を深く掘り下げなければ進歩も発展もない  
 ・「なぜ」を深く掘め「どうしたら」できるのかを考へる
- 3 早いのが馳走  
・遅延はばか、遅延は恥、遅延は恥、遅延は恥  
 ・「早いのが馳走、遅いのが恥」の言葉もある
- 4 きれいにする  
・きれいにする、その実行が良しものを作る品質に徹する第一歩である  
 ・身も心もきれいにする第一歩である

グンゼのあゆみ(CSR関連)

- 1896 ●郡是製絲株式会社設立(8月10日)
- 1897 ●女性従業員に夜学を開始
- 1900 ●社則の制定
- 1909 ●川合信水入社 教育部を設置  
・繭の正量取引開始
- 1911 ●各分工場に養生院(診療所)を設置
- 1915 ●社訓の制定
- 1917 ●郡是女学校設置
- 1922 ●育英資金制度制定
- 1925 ●社則改正、社訓を冒頭に掲げる
- 1926 ●社章を商標登録  
・郡是健康保険組合設立
- 1927 ●郡是病院開設
- 1929 ●工場食に玄米食実施  
・はじめて社歌を制定
- 1937 ●社旗・工場旗制定

- 1943 ●航空機部品製造に転換  
・社名を「郡是工業」に変更  
 ・日本蚕糸製造に17製糸工場と7蚕種製造所を委譲
- 1946 ●社名を「郡是製糸」に戻す  
・従業員組合結成
- 1947 ●労働協約締結
- 1955 ●社内報「ぐんぜ」創刊
- 1964 ●TQC運動を導入
- 1967 ●「グンゼ株式会社」に社名変更
- 1970 ●公害予防委員会設置(公害予防規約制定)
- 1971 ●初の海外生産基地、韓日繊維設立
- 1972 ●廃水担当者研修会スタート
- 1974 ●育児休職制度新設  
・第1回グンゼワールドテニス開催('74~'93延べ20回実施)
- 1975 ●公害防止の基本方針決定  
・環境管理専門組織設置(技術部公害管理課)
- 1976 ●社是制定

- 1979 ●公害予防全社総点検スタート
- 1981 ●廃水脱窒素技術確立(梁瀬工場に導入)  
・定年年齢を55才から60才に延長
- 1984 ●グンゼミュージックスペシャル開始('84・'86~'97延べ13回実施)
- 1985 ●オープン層破壊物質の使用制限取り組みスタート
- 1986 ●製糸廃水の再利用技術確立(本宮)
- 1987 ●V100運動開始(10年間)
- 1988 ●お客様相談室設置  
・大気汚染物質削減への取り組みスタート  
 ・公害管理課を環境管理課に改称  
 ・決算期変更
- 1989 ●コース別人事処遇制度導入
- 1990 ●看護休職制度の新設
- 1991 ●福知山マラソン('91~'95・'03延べ6回)
- 1992 ●「社内環境自主基準」制定  
・「環境保全に関する基本方針」
- 1993 ●廃棄物削減に向け、全社廃棄物調査開始

## 売って喜び、 買って喜ぶ

### 共存共栄

創業者・波多野鶴吉は「養蚕家も製糸家も共にその利に浴することができこそ、健全な蚕糸業の発達ができる」として、まずは養蚕家との信頼づくりを目指すため、「一般の相場に注意し、売って喜び、買って喜ぶようにせよ」と購員一人ひとりに徹底しました。この理念は社章にも反映されています。中心の円はグンゼ、外の円は養蚕家を表し、「会社と養蚕家の共存共栄」を示すとともに、中の円は「まこと」、外の円は「完全」で「至誠完全」を期する社訓の精神も意味しています。

110年たった現在も、ステークホルダーとの信頼関係を結び、共に持続的な発展をしようとするCSR活動の基本理念として受け継いでいます。

#### ●社章



大正4年制定



創業者・波多野鶴吉 遺墨  
至誠(しせい):きわめて誠実なこと(広辞苑)

#### ●購員

当時の購員取引においては「買い叩き」が常であったが、波多野鶴吉は購員担当者(購員)に対し、「相場をよく見極めるとともに品質に留意し、公正取引を心がけ、養蚕家との信頼関係を構築せよ」といった方針を徹底することにより養蚕家との共存共栄を図った。

## 消費者の声を 商品づくりに活かす

### 顧客起点

消費者の声を商品に反映させるしくみづくりを目指し、1988年にお客様相談室を設置。商品に関するお問い合わせや、ご要望に対応する窓口を一元化しました。さらに、ホームページなどでお客様とダイレクトにコミュニケーションを図るしくみを構築し、消費者の声を商品づくりに活かしています。長年にわたる顧客起点の活動が高く評価され、平成14年度消費者志向優良企業として、繊維業界で初めて経済産業大臣表彰を受賞しました。



グンゼホームページ

美脚.com

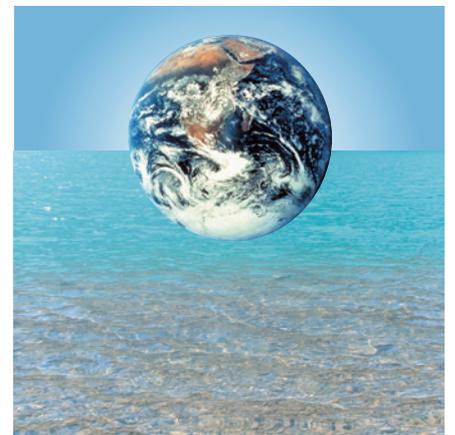


いいこち.com

## 地球との共存共栄を 目指して

### 環境保全

企業活動を行う上で、かけがえのないこの地球になるべく負荷をかけないよう、環境負荷低減活動に積極的に取り組んできました。1970年には公害予防委員会を設置。また、1997年には「グンゼ環境憲章」を制定し、環境への取り組み姿勢を社内外に明示しています。この基本姿勢をもとに環境経営を推進する一方、環境に配慮した製品の開発にも注力しています。1994年に国内で初めて商品化に成功した使用済みペットボトルを原料とした再生ポリエステル繊維素材「リベット」をはじめ、ペットボトルのリサイクルを推進するため、ラベルとペットボトルを簡単に分別できるようにミシン目を工夫したフィルムの開発や、省エネのためのシステムなど、環境に配慮した商品・サービスを提供しています。



- 1994 ●グンゼカップワールドレディスゴルフ('94~'99延べ6回)
  - オゾン層破壊物質全廃完了
  - ペットボトルリサイクル生地「リベット」事業開始
- 1995 ●新入社員・新任管理者に環境教育を開始
- 1996 ●創立百周年記念式典挙行
  - グンゼ博物苑オープン
- 1997 ●廃水、大気に関する社内環境自主基準を全事業所で達成
  - グンゼ環境憲章制定
  - グンゼ行動規範制定
- 1998 ●亀岡サイトにてISO14001認証取得
- 1999 ●セクシュアル・ハラスメント体制整備
  - 相談体制の設置
- 2000 ●環境行動計画「アクションプラン2001」策定
- 2001 ●定年後再雇用制度の新設
  - 「リベット」リサイクル推進協議会会長賞受賞
  - 研究開発部京都研究所等9事業所でISO14001認証取得

- 2002 ●環境戦略室設置
  - 日本経済新聞社「環境経営度調査」にて繊維業界トップ
  - 環境行動計画「アクションプラン2004」策定
  - 守山・梁瀬・本工場においてゼロエミ達成
  - 江南工場等13事業所でISO14001認証取得
    - 企業倫理ヘルプライン導入
    - チーフオフィサー制の導入
- 2003 ●加賀グンゼがKES(京都環境マネジメントシステムスタンダード)取得
  - 全紡グンゼ等5海外事業所でISO14001認証取得
  - グンゼ物流等8事業所でISO14001認証取得
  - CCOの任命
  - 消費者優良企業・経済産業大臣表彰受賞
  - 「エコプロダクツ2003」に出展
  - 「グンゼ行動規範」一部改訂

- 2004 ●アパレル関係会社8社にてISO14001拡大認証取得
  - 環境行動計画「アクションプラン2007」策定
  - 「エコプロダクツ2004」に出展
  - 水だけで洗えるインナー「エコマジック」日刊工業新聞社「2004年(第47回)十大新製品賞」受賞
  - わたしたちの倫理カード作成
  - 企業倫理ヘルプラインを発展解消し、「なんでも相談ホットライン」設置
  - CCSROの任命
  - 人材開発室・CSR推進室設置
- 2005 ●海外関係会社5社にてISO14001認証取得(国内41、海外12)
  - ITセキュリティ方針・対策標準作成
  - 個人情報保護規程・公益通報者保護規程作成
  - 育児休暇制度改正・こどもの看護休暇制度新設
  - 「チーム・マイナス6%」参加
  - 「エコプロダクツ2005」に出展
  - 各種アンケート実施(サプライヤー構成員対象等)

## 企業理念を<sup>たていと</sup>経糸(不易)として、 ステークホルダーの信頼に応えることがCSRの基本です。

# CS Rの 取 組 み

### ※1 三つの躰

#### ●あいさつをする

あいさつは、相手の人格を認め尊重することです。

あいさつは、思いやりの心であり、感謝の気持ちをあらわします。

あいさつは、相手と心を通わせ、よりよい人間関係を築く第一歩です。

あたたかい言葉と笑顔は、心をなごませ、喜びを感じさせます。

#### ●はきものをそろえる

そろっていることは、美しいと感じる心です。

そろえるとは、小さなこともおろそかにしない誠実さです。

そろえてあるはきものは、はきやすい。先々のことを考える気くばりです。

乱れを直すことは、気持ちを引き締め、自らを律する心がけです。

#### ●そうじをする

そうじをすることは、正しさ、美しさ、すがすがしさを愛することです。

そうじをすることは、働くことの楽しさ、仕事を愛する心を養います。

そうじをすることは、物事のけじめをつけることです。

そうじをすることによって、人にこころよさと喜びを与えます。

当社は明治29年8月、何鹿郡<sup>いかるがふ</sup>(現、京都府綾部市)の地場産業である蚕糸業の振興を目的として、創業者・波多野鶴吉によって設立されました。社名もこの趣旨を反映させ、「郡の方針」を意味する「郡是」と定め、地域社会との共存共栄を目指す会社として郡是製絲株式会

社(現・グンゼ株式会社)はスタートしました。私たちは、この企業理念を経糸(不易)として、ステークホルダーの信頼に応える公正で誠実な企業活動を推進し、地球と企業の持続的発展向上を目指します。

### 創業の精神

#### 「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」

### 社是

1. 優良品の提供に徹し社会に貢献する
1. 誠意をつくし信頼の輪をひろげる
1. 若さと創意をいかし世界の一流をめざす

### 三つの章句

- 誠意** 一所懸命、これが誠意である。小事をおろそかにしない。表裏がない。遅怠がない。間断がない。約束を違えない。責任感も勇気もこれより出で、知恵もここから生まれる。成功の基礎である。
- 愛情** 思いやりの心である。相手の身になって考える。非礼を行わない。よく忍待する。知恵はここから出て、人を生かし、事を生かし、物を生かす。
- 謙虚** 己を空しうして他から学ぼうとする精神である。進歩の母体である。競争は、きのうの我とする。

### 三つの躰<sup>※1</sup>

- あいさつをする ●はきものをそろえる ●そうじをする

### グンゼ行動規範

- 第1章 グンゼは、企業活動を通じて社会貢献に努め、企業市民としての責任を果たします。
- 第2章 グンゼは、世界に通じる公正なルールにのっとり活動します。
- 第3章 私たちは、なにごとにも積極果敢に挑戦するとともに、良識をもって行動します。

### 経営の基本方針

顧客のために	社員のために	株主のために	地域社会のために	地球環境のために
常にお客様の立場に立って考え、その期待に応えます。	失敗を恐れず果敢に挑戦する企業風土をつくります。	企業情報を積極的かつ公正に開示し、信頼に応えます。	企業市民として地域活動に参加し、社会貢献に努めます。	環境問題に積極的に取り組み、地球との共存に努めます。

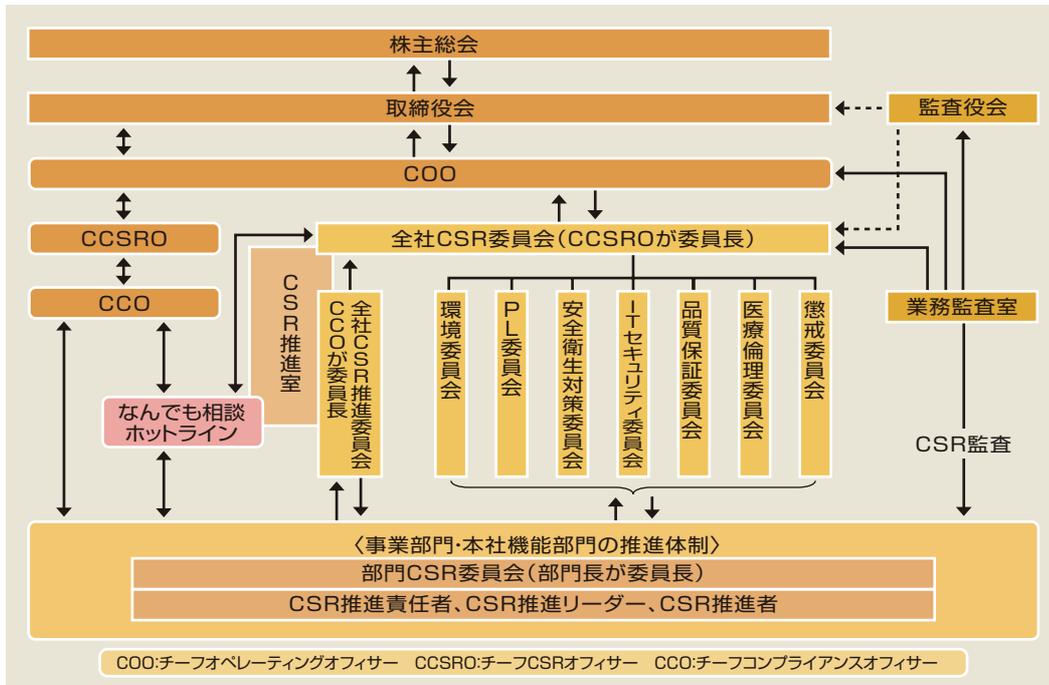


全社CSR委員会

## CSR推進体制と重点活動

2005年度は、全社CSR委員会および全社CSR推進委員会を四半期に一度開催し、当社のCSR推進や課題について協議を行いました。また、各部門でのCSR研修会を通じて、CSRとは何か、CSR推進の目的は何かを構成員に伝えるとともに、グループ討議を取り入れてお互いに率直な意見を交わすことで、倫理観の向上に努めました。

### CSR推進体制



### CSR表彰

2004年度までは、環境活動において特に顕著な成果をあげた事業所を表彰していましたが、2005年度からは評価項目を環境のみならず社会面にも拡大し、CSR表彰を行いました。

#### 1位:久世工場 **ここがすばらしい**

- 環境負荷低減への取り組み:「えひめ<sup>\*2</sup>」の導入効果により、廃水処理(生物処理)から発生する汚泥を60%削減。
- 地域社会とのコミュニケーション活動:独自の環境報告書<sup>\*3</sup>の作成と開示、真庭環境市民会議主催「市環境フォーラム」への出展、地域の資源循環型事業連帯協議会への参画。

### コーポレートガバナンス強化に向けての取り組み

#### 2004~05年

- チーフオフィサー制の導入
- 執行役員制度導入
- 取締役の定員削減(20名以内→15名以内)

#### 2006年

- 取締役任期の変更(2年→1年)
- 社外取締役の招聘
- 事前警告型買収防衛策の導入
- 内部統制システムの整備・充実

※2 えひめ

P.24

※3 久世工場環境報告書



※4 「エコ京都21」

P.20

## 2005年度の主な取り組み

構成員一人ひとりが法令遵守をふまえた高い倫理観のもとステークホルダーへの責任を果たします。

### ※1 個人情報に関する相談窓口

フリーダイヤル  
0120-077-381  
(土日・祝祭日、年末年始・夏期休暇を除く  
9時30分～17時30分)

### グンゼグループ プライバシーポリシー

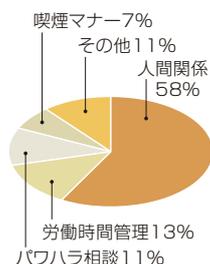
<https://gws.gunze.co.jp/ghtml/privacy/contact/contact.html>

### ※2 コンプライアンス 情報交換会で協議した 課題の内容

社員のモラル関連・7件  
社員の法令違反・5件  
個人情報関連・5件  
環境関連・6件  
国内外リスク情報・5件  
取引先のコンプライアンス違反・5件  
クレーム・3件  
PLクレーム・3件  
パソコン紛失・2件  
商品関連・3件  
労災・3件  
アスベスト関連情報開示・2件  
顧客の事故・3件  
外部からの改善要請・2件  
高額書籍の購入要請・2件  
その他・5件

※3「なんでも相談ホットライン」相談者の内訳は、43件中、16件が男性、26件が女性からの相談(1件は不明)。

### 相談内容の内訳

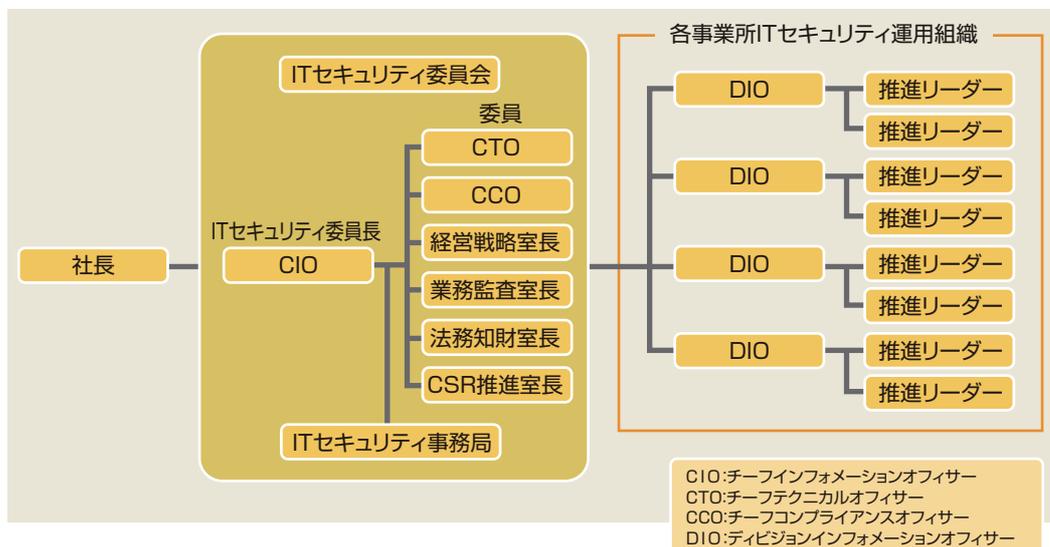


### 内部統制の仕組み構築

#### ●ITセキュリティ管理体制の構築

2005年度は情報の漏えいにつながりかねないPCの紛失が2件発生し、ご迷惑をおかけした方々へそれぞれ対応しました。二次被害は生じておりません。2006年4月にITセキュリティ方針を制定し、管理体制を構築。構成員全員が

#### ITセキュリティ管理体制



#### ●公益通報者等保護規程の制定

公益通報者保護法施行(2006年4月)にともない、2006年2月に公益通報者等保護規程を制定し、不正行為等の防止や早期発見と是正により、コンプライアンス経営の強化を図っています。「なんでも相談ホットライン」(窓口・CSR推進室)では、法令違反に限定せず相談・通報を受け付け、風通しの良い職場風土づくりを目指しています。

### 内部統制の仕組み運用状況

#### ●コンプライアンス情報交換会

グンゼではコンプライアンス情報交換会を月一回実施し、法令遵守にかかわる課題について協議しています。2005年度は、61件の事例<sup>※2</sup>について協議し、全社CSR委員会等で開示するとともに、CSR研修会においてケーススタディによる再発防止教育を行いました。

ITセキュリティ方針を遵守し、実践できるよう周知・徹底に努めています。

#### ●個人情報保護対策について<sup>※1</sup>

当社グループでは個人情報の重要性を認識し、個人情報保護規程やプライバシーポリシーのもと、個人情報漏えい防止に努めています。



DIO研修会でもケーススタディによるグループ討議を導入



#### ●なんでも相談ホットライン、セクシャル・ハラスメント相談の受付

2005年度は、合計43件の相談<sup>※3</sup>が「なんでも相談ホットライン」に寄せられました。また、中央セクシャル・ハラスメント中央窓口では、10件の相談を受け付け、それぞれ解決・対応を図りました。

## 「わたしたちの倫理」カード

一迷ったときに読みなおそう

1. その行為は法律に違反していませんか？
2. その行為は社会に通用しますか？新聞・TVなどで報道されたらどうですか？
3. その行為はグンゼ行動規範に反していませんか？
4. その行為をお客さまはどう思いますか？
5. その行為を正しくないとかわかっていながらやっていませんか？
6. その行為は誇りをもって実行できますか？

署名

2005年度は、すべての構成員に「CSRとは何か」を周知するための研修会を実施しました。経営トップをはじめとする構成員が受講するCSR研修会では、グループ討議を必須とし、双

方向のコミュニケーションを図りながら、互いの倫理観を高め、風通しのよい職場を目指しています。また、管理職層を対象とした外部講師によるパワーハラスメントセミナーを行いました。

※4 PDCAサイクル Plan(計画)、Do(実施)、Check(検証)、Action(改善)を繰り返す継続的な活動。グンゼでは、CSRアンケート→課題抽出→重点実施事項設定→計画→実施→CSRアンケートの流れでPDCAサイクルを回している。

### CSR研修会の実施

主催	内容	受講延人員 実施場所等	対象者
CSR推進室	CSRの基礎 個人情報保護法 公益通報者保護法 人権研修 ケーススタディを中心にしたグループ討議	197名	経営層 全社CSR委員会 CSR推進委員会 部門CSRオフィサー CSR推進リーダー
	部門CSR責任者、CSR推進リーダー対象パワーハラスメント研修会	197名	
	CSR報告書を読む会	122名	
	セクシャル・ハラスメント相談員スキルアップ研修	66名	
業務監査室	下請法違反防止研修	277名	14事業場 (外注会社3社含む)
各部門CSR委員会	CSR基礎講座 個人情報保護法 ケーススタディを中心にしたグループ討議	各事業場 74か所	CSR推進委員 各事業場構成員
	CSR報告書を読む会	各事業場	
	セクシャル・ハラスメント防止研修	各事業場	
	パワーハラスメント防止研修	各事業場	
	人権研修	各事業場	
	コミュニケーションスキルアップ講座	1事業場	



経営トップ層CSRセミナー



CSRリーダー研修会



セクハラ相談担当者対象研修会で  
行われた傾聴トレーニング風景

### 2006年度の取り組み

- 部門CSR委員会でPDCAサイクル<sup>\*4</sup>を回すことで、CSR活動を事業活動と結びつけ、構成員一人ひとりがグンゼ行動規範を実践。
- 品質管理を徹底し、消費者との信頼関係を構築。
- 取引先を巻き込んだCSR推進活動を実施。
- ITセキュリティ対策強化。

## ステークホルダー満足度の向上を目指して

ステークホルダーの皆さまからの期待を敏感に察知し、  
グンゼの責任を果たします。

※1 グンゼグループ・  
サプライヤーに対する  
CSRアンケート

### 調査項目例

社会:児童労働、強制労働の有無

社会:構成員の労働時間管理について

社会:職場の安全衛生、福利厚生について

環境:環境関連の法令遵守について

環境:土壌汚染、大気汚染、騒音発生、汚水排水を最小にするための取り組み

### 回答数

#### 事業所

国内 54か所

#### 子会社・関連会社

国内 37か所

海外 13か所

#### サプライヤー

国内 638か所

海外 181か所

#### 合計

国内 729か所

海外 194か所

### ※2 FTSE4 Good Japan

英国のFinancial Times社とLondon Stock Exchangeの共同出資会社であるFTSE社が2004年より実施しているSRIファンド。

### ※3 SRI

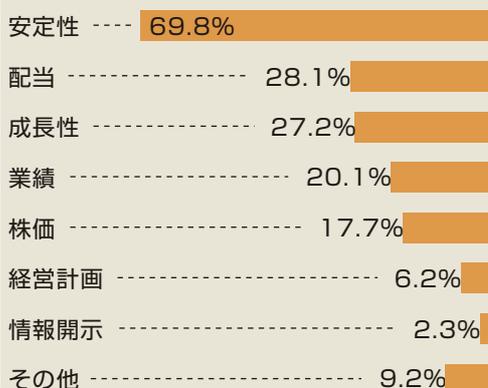
Socially Responsible Investment(社会的責任投資)の略。

## 株主アンケートの実施

株主の皆さまの満足度向上を目指してアンケート調査を実施したところ、約3,600名の方より回答をいただきました。(回答率15%)

### アンケート集計結果(抜粋)

#### Q 当社株式に投資された理由(複数回答)



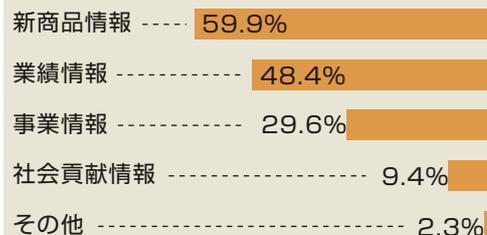
#### Q 当社のイメージ(複数回答)



#### FTSE4 Good Japan Index<sup>※2</sup>に採用

グンゼはSRI<sup>※3</sup>ファンド「FTSE4 Good Japan Index」の構成銘柄に組み入れられています。全世界で735社、日本企業で190社選出。(2006年3月現在)

#### Q 当社から欲しい情報(複数回答)



#### その他のご意見・ご要望(一部抜粋)

- 事業報告書は、特に決算書がわかりやすくなった。トピックスも充実、全体に丁寧で良い。
- グンゼ製品の愛用者。安定と信頼を買っている。今後の更なる発展、活躍を!
- 多くの事業への取り組みに驚き。保守的かと思ったが、意外に革新的。もっとPRを!
- IR活動を活発に!多分野での活躍、新規事業進出などの情報が欲しい。
- 株主優待、社員販売(即売会)への招待、施設割引利用等を望む。

いただいたご意見・ご要望については対応に時間がかかるものもありますが、できることから実施してまいります。貴重なご意見ありがとうございました。

## グンゼグループおよびサプライヤーへのCSRアンケート<sup>※1</sup>の実施

2005年度は、国内外の事業所・関連会社およびサプライヤーの協力を得て、CSRアンケートを実施し、自主監査を行いました。今後もグンゼグループはもちろん、サプライヤーを含めたCSR経営を推進し、社会的信頼性の向上に努めます。

#### ILO(国際労働機関)が定める基本的な労働基準の児童労働、強制労働について

グンゼグループでは、現時点において児童労働および強制労働はありません。今後もグンゼグループおよび取引先を含め、これらを決して許さない態度を貫きます。

## 構成員に対するCSRアンケート調査※4の実施

2005年度は、10月の企業倫理月間の取り組みとして、構成員に対するCSRアンケート調査を実施しました。集計結果を社内報やイントラネットで公開するとともに、各層のCSR

会議において課題を抽出・分析し、対策を協議しました。課題については、部門CSR委員会において2006年度の重点テーマとして設定し、取り組みを進めます。

### ※4 構成員に対するCSRアンケート

構成員を対象に7,903部を配布し5,744部を回収(回収率:72.7%)。

### 今後の対応

アンケート結果をふまえ、2006年度の部門CSR委員会において重点取り組み項目を選定し、展開。

### 部門CSR委員会での重点取り組み項目例

- 創業の理念の認知率向上
- セクハラ・パワハラ防止活動と相談窓口担当者向上訓練
- 職場風土改善
- 労働時間管理の徹底
- 公私混同の撤廃
- 個人情報保護・ITセキュリティに関する規程の周知と徹底
- 育児・介護休職制度の認知率向上

### CSRアンケート調査結果(抜粋)

設 問	はい (%)	いいえ (%)	わからない (%)
グンゼの創業の理念や名前の由来をよく理解している	61.4	38.6	
CSRという言葉聞いたことがある	67.6	32.4	
職場でセクハラ行為はなかった	47.0	7.8	45.2
わたしはパワハラを受けて現在悩んでいる	5.8	94.2	
わたしの職場はなんでも言い合え、風通しがよいと思う	29.2	18.7	52.1
わたしはサービス労働はしていない	47.2	29.3	23.5
わたしの職場では公私混同は行われていない	43.9	10.6	45.3
個人情報保護に関する規則が周知され、徹底されている	36.0	6.2	57.8
社内に「いつかはこうなりたい」と思う上司・先輩がいる	45.5	54.5	
わたしの職場では地球環境に配慮した製品を購入している	42.5	8.4	49.1

## 製品の自主回収などについて

### 「2005年秋冬用新商品肌着 サーマコントロール加工商品」の自主回収について

2005年秋冬用新商品肌着として製造販売した「サーマコントロール加工(温度調節機能)を施した商品」において、体質、体調等によっては着用後、発疹が生じる方がいらっしゃるようになりました。サーマコントロール加工を施した商品について安全性を再確認するため、販売をすべて中止し、店頭から自主回収を行いました。購入されたお客様の中で、着用後に肌に異常を感じたお客様、未着用でも製品に不安を感じるお客様から、当社窓口へご連絡をいただき、商品を回収させていただきました。商品開発時の皮膚刺激性試験や試着試験において問題はありませんでした。生地加工の工程で一部の商品に加工薬剤が過剰に付着し、肌に影響したものと考えられます。再発防止対策として、製品の安全性をより高める取り組みを徹底していきます。

### 「血糖値センサー」の自主回収と販売の中止について

当社が製造した血糖値センサーについて、高温状態で長期保管した場合に低血糖状態を見逃す恐れがあることが判明し、2005年8月29日より本製品を自主回収するとともに製品の販売を中止しました。これまでに健康被害の報告は受けていません。再発防止のため、高温での保存安定性の高い商品に改良し、対策の有効性を確認しました。

### 「東横インへの賃貸物件」について

2006年1月、グループ会社において(株)東横インに賃貸中の「溜池山王駅官邸南店」の物件が不法に改造され、建築基準法違反であることが判明し、是正措置を講じるとともに、ホームページ等に対処状況の適時開示を行いました。

<http://www.gunze.co.jp/ir/index.html>

・皆さまに大変ご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げますとともに、再発防止と信頼の回復に努めます。

## 消費者への責任

企業理念である優良品の提供に徹し、消費者の目線により良い商品・サービスの開発・提供に挑戦します。

### ※1 お客様の声

2005年度、お客様相談室に寄せられた声のうち、73%が売場・商品に関するお問い合わせ、23%がクレーム・お叱り、4%が商品改善提案。

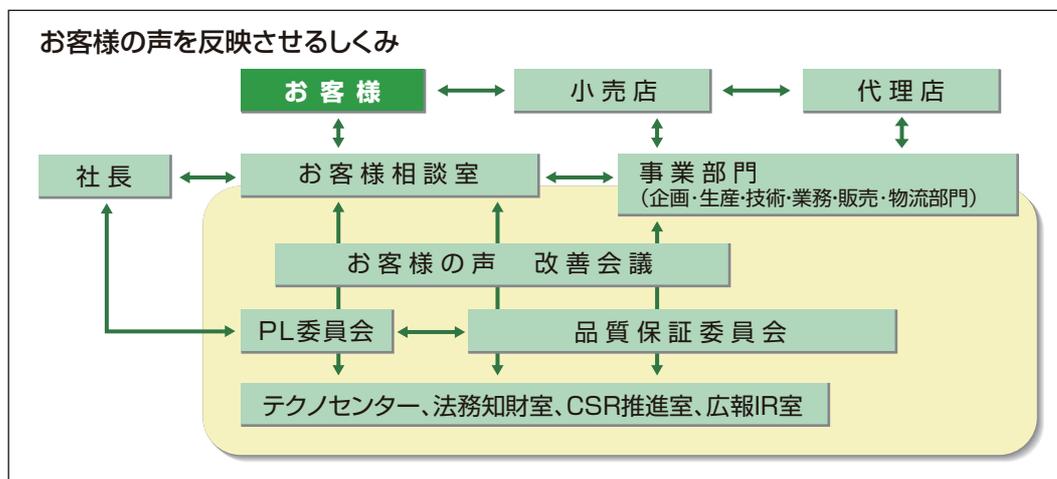
### 品質方針

安全はすべてに優先することを基本として、お客様に安心して使っていただける商品を製造し、提供する。

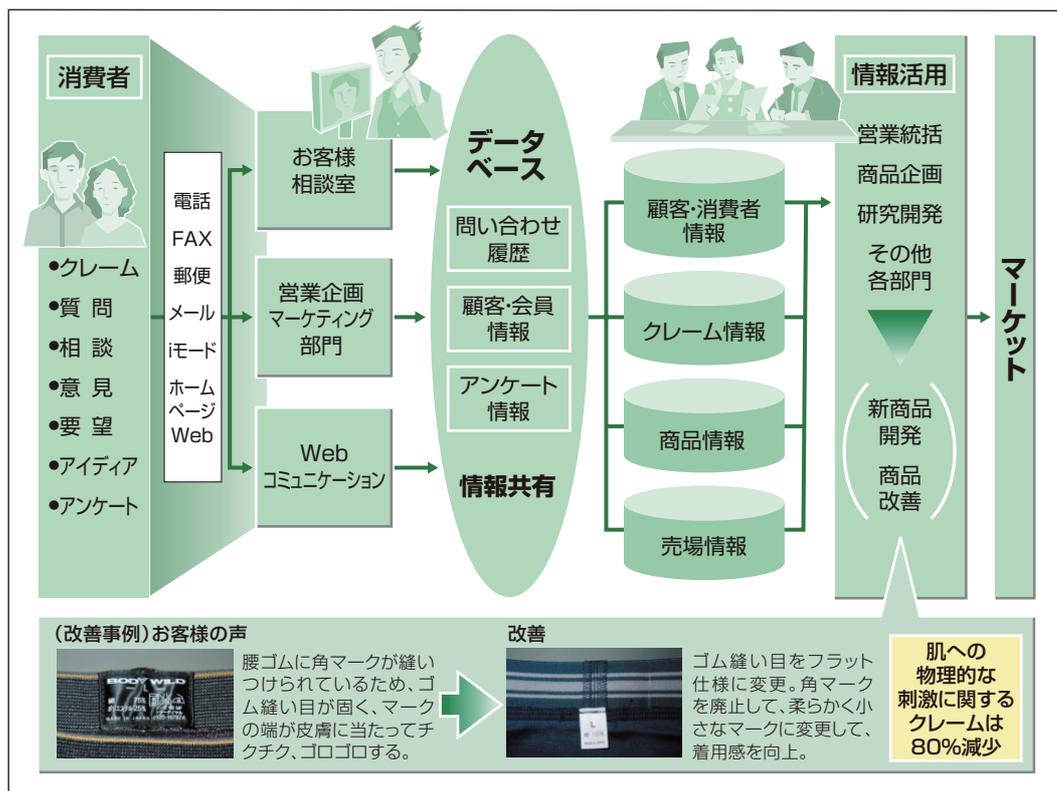
### お客様満足の上昇のために

創業以来「品質第一」の視点で製品やサービスをを通じて社会に貢献するという経営理念

のもと、お客様からの問い合わせ・苦情・提案等に的確に対応しています。<sup>※1</sup>また、それらの情報を社内にフィードバックし、情報の共有を図るとともに会社の経営・商品企画や商品の改善に結びつけています。皆さまからいただいた貴重な情報を積極的に活かすべく、以下の仕組みで取り組んでいます。



### 消費者の声を改善に活かす取り組み



●個人情報、グンゼ個人情報保護規程に則り厳正に管理しています。

## 品質と安全性の管理・保証体制

「消費者の皆さまから信頼され選ばれるメーカー」を目指して、適正表示をはじめ、商品の安全性や信頼性を高める取り組みを推進しています。

### 企画・設計上での取り組み

- 安全性の評価、快適さの追求(部門内と全社でチェック)
- 初期流動品の品質安全保証

### 製造上での取り組み

- 品質保証体系を構築、製品規格に基づき製造技術標準を作成
- 製造現場では工程ごとに品質を保証する体制を整備
- 運用として、日常管理(製造技術標準)、源流管理(品質作り込み)、品質監査(安全、品質保証状況把握)を推進

### お客様指摘事項

お客様相談室と部門別消費者窓口による迅速対応

+

### 品質管理活動

品質保証委員会と事業部、工場の品質管理部門が連携し、安全性・品質保証活動を推進

+

### 安全性確保

本社、事業部門のPL委員会による問題の早期処理と再発防止に向けた取り組み

### 適正表示に関する取り組み

- 2005年度より企画段階からの表示チェック体制を強化する仕組みを運用

### 「製造物責任(PL)<sup>※2</sup>法」への対応

グンゼは「製造物責任(PL)法」を遵守し、万一PL法に関わる問題が発生した場合は、当社製造該部門とお客様相談室が取引き先と連携して、消費者の安全第一と被害拡大防止を第一義とし、原因を速やかに調査・確認し、商品の回収、問題の把握・改善にあたります。国内品はもちろん、輸入品に関しても徹底した品質管理を行っています。

### ※2 造物責任(PL)

製品の欠陥によって、その製品の消費者その他第三者が生命・身体または財産に被害を被った場合、その製品の製造・販売に関与した事業者が、被害者に対して負うべき法律上の責任をPL(Product Liability: 製造物責任)という。

### ※3 快適工房

快適工房では、生理人類学や人間工学の見地から、着用圧や衣服内の温度、湿度の測定を重ね、着用時の感覚や生理値を測定把握することにより、下着と人のより良い関係を追究。

### ※4 メディエル

(株)クラレの高純度EVOH繊維。医療分野の中で「生体適合性」が必要とされる人工透析膜材料として注目のEVOH(エチレン-ビニルアルコール共重合樹脂)を繊維にしたもの。

### ※5 素肌のキモチ

3つの特徴で肌への刺激を少なくしたインナー。

- 1.最新のナノテクノロジー(超微細技術)により生まれた皮膚に近い素材。
- 2.汗を吸収して素早く拡散。肌はいつも清潔さらさら。
- 3.肌に触れる部分の縫い目を削減。

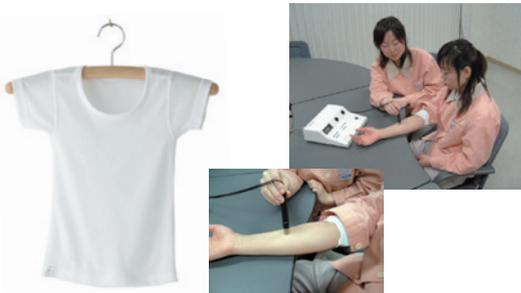
 <http://www.gunze.co.jp/suhada/>

## 快適工房<sup>※3</sup>の2005年度の取り組み

快適工房では生理学的な研究を中心に活動しています。健康への関心が増す中、肌にやさしく、生体親和性のある素材「メディエル<sup>※4</sup>」を使った「素肌のキモチ<sup>※5</sup>」を開発。モニター評価において、皮膚刺激を低減させる結果が得られました。さらに、縫い目仕様をフラットにするなど細部の仕様にもこだわることで、肌にやさしい着心地を実現させました。



衣服内湿度を測定中



肌にやさしい「素肌のキモチ」

乾燥はお肌の敵です。この水分蒸散計で皮膚から水分が蒸発する量を測定し、製品開発に活かしています。



3次元人体測定により着用シルエットを確認

## 従業員とともに

「人は財産」がグンゼの経営の基本です。従業員のやる気(活力)とチームワーク(結力)を重視し、一人ひとりが安全かつ健康に、いきいきと働ける職場づくりに取り組んでいます。

### ※1 次世代育成支援対策推進法

育児休業や有給休暇の取得促進など、仕事と子育てを両立するための行動計画の策定を企業や自治体に義務付けた法律。2005年4月施行。

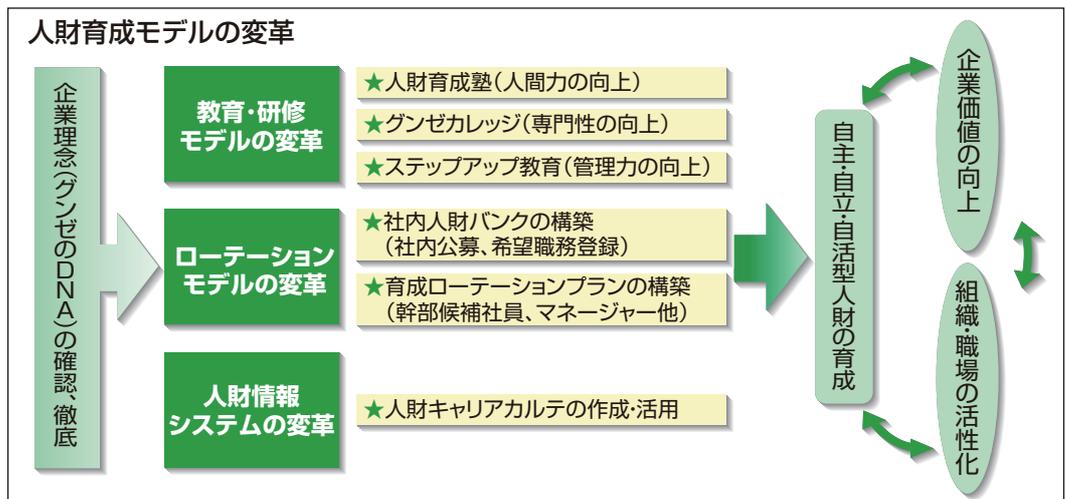
### ※2 グンゼの育児・介護支援制度

- 育児休職期間は「子が1歳に達した以降の最初の4月1日」まで認める。(取得理由も、保育所に入所できない場合等に限定しない。)
- 介護休職期間は最大1年間(法定は93日)まで認める。
- 育児休職・介護休職とも休職期間中の社会保険料(本人負担分)は会社負担。

### 人財の育成

グンゼでは、「3C10計画」の中で「人財育成モデルの変革」に取り組んでいます。「教育・研修モデルの変革」によって、人間力、専門性、管理力の向上を図るとともに、「ローテーションモデルの変革」により、一人ひとりの主体的

な選択を重視したローテーションの実現を進めています。また、これらの推進基盤となる「人財情報システムの変革(構築)」を推進し、3つの変革を通して自主・自立・自活型人財の育成、企業価値の向上、組織・職場の活性化を目指しています。



### 次世代育成支援対策推進法※1に基づく取り組み

法定以上の育児・介護支援制度※2を整備し、働きやすい職場づくりを目指しています。また、週1回「ノー残業デー」を設定し、効率的な業務推進と所定外労働削減にも取り組んでいます。今後もサポート体制を強化し、男女がともに仕事と家庭の両立が図れる職場環境づくりに努めます。

### 育児・介護支援制度の取得状況

	(人)	
	2004年度	2005年度
育児休職取得者	43	43
育児の短時間勤務利用者	12	9
こどもの看護休暇取得者	-	11
介護休職取得者	3	2
介護の短時間勤務利用者	0	0



### これからも働き続けるために

私が育児休職制度を利用したのは2002年でした。当時、周りに制度を利用した方がいなかったため手探り状態でしたが、労務担当の方や上司のご配慮で無事取得することができました。復職に際し、まず困ったのは、託児施設のことでした。希望通りの入所が困難だったり、託児時間と帰社できる時間の兼ね合いなど、いろんな問題が同時に起こり、困りました。今回の制度改正で育児休職期間の延長が可能となりましたが、こうした問題に少しでも対

応がしやすくなったのではないかと思います。

日常業務は「計画性と効率」を心がけ、周りの人たちに迷惑をかけることのないよう努めています。子どもの病気など急に休まなくてはならないことも多くあります。仕事と育児を両立させて働き続けることができているのは、職場で支えていただ



ている上司、同僚ほか皆さんの理解と協力があったからこそだと感謝しています。

ビジネスセンター  
稲垣 仁美

## 雇用状況

男女別従業員数〔グンゼ(株)単体〕 (人)

	男性	女性	合計
2005年3月31日現在	1,677	876	2,553
2006年3月31日現在	1,618	813	2,431

## 障がい者雇用状況

障がい者雇用を経営指標の重要項目として位置づけ、全部門での法定雇用率達成を目指して取り組んできましたが、2006年3月20日現在のグンゼグループの障がい者雇用率は1.72%(前年度実績1.61%)となり、法定雇用率1.8%の達成には至りませんでした。引き続き、全部門での法定雇用率達成を目指して取り組んでいきます。

## 労働組合とのコミュニケーション

グンゼは、労働組合を経営の重要なパートナーと位置づけ、定期的な経営協議会の開催、労使研究委員会、従業員満足度調査等を通じて、経営状況や各種課題の共有化を図り、労使一体となって活力溢れる職場づくりに取り組んでいます。

## 人権啓発活動

グンゼは、大阪同和・人権問題企業連絡会等の会員企業として、さまざまな差別の解消に向け、「人権を尊重する企業づくり」に取り組んでいます。社内では、同和問題やセクシャルハラスメント・パワーハラスメント防止等を中心に、階層別に学習の機会を提供。社外研修としては、「部落解放・人権夏期講座」(於・高野山)に永年にわたり継続的に受講者を派遣し、今年も25名が参加しました。



「第36回部落解放・人権夏期講座」受講者

## 労働安全衛生の取り組み

### グンゼ安全衛生方針

創業の精神である「人間尊重」の理念のもと、従業員の安全と健康を守ることが、経営の基盤であり、企業としての社会的責任であることを認識し、従業員が安全で健康に働ける快適な職場環境を実現するための活動<sup>\*3</sup>を積極的に推進します。

### 労働災害・通勤災害<sup>\*4</sup>低減に向けた取り組み(安全活動)

「災害ゼロ」を目指して取り組みを進めてきましたが、2005年度は労働災害件数が増加しましたが、今後も、個々の災害発生原因の究明、日常の自主点検活動の強化、安全教育の推進により、「ゼロ災職場」の実現を目指していきます。

交通事故防止に向け、自動車通勤者、社用車の運転者を対象とした運転適性診断および地元警察署の協力による交通安全対策を実施しています。こうした積極的な取り組みが評価され、前年度に引き続き、宮津工場と本工場、さらに梁瀬工場および倉吉グンゼ(株)が交通安全表彰を受けました。

### 健康づくりに向けた取り組み(衛生活動)

#### ●健康管理対策

- 健康診断項目の充実
- 海外出向者も含めた健康診断の受診徹底とフォロー実施
- 産業医、保健師による健康相談会の実施
- 健康増進活動の実施(体力測定の実施、体育活動の支援)

#### ●メンタルヘルス対策

- メンタルヘルス研修会の開催
- 「心の電話相談室」<sup>\*5</sup>(フリーダイヤル、365日24時間体制)の設置
- 産業医による健康相談会
- ポスター、リーフレットによる啓発の促進



メンタルヘルス研修会〔東京支社〕

### ※3 主な活動項目

- 安全衛生諸法令の遵守および必要な自主規程の制定
- 安全衛生委員会の運営(35事業所)
- 計画的、継続的な安全衛生管理活動の推進
- 潜在的な危険の抽出と改善の推進
- メンタルヘルス対策、生活習慣病対策の推進
- 中央安全衛生委員会メンバーによる職場の安全巡視
- 大規模自然災害対策の推進

### ※4 休業を伴う労働災害・通勤災害発生状況

- 2003年度  
労働災害…… 8件  
通勤災害…… 11件
- 2004年度  
労働災害…… 3件  
通勤災害…… 1件
- 2005年度  
労働災害…… 12件  
通勤災害…… 1件

### ※5 心の電話相談室

2005年度に「心の電話相談室」に寄せられた電話相談件数は72件、うち16件が心のケアに関する相談。

## 社会貢献活動

社会貢献はグンゼの「是」。  
地球・社会との共存共栄を図ります。

### 社会貢献活動の基本的な考え方

グンゼは、創業の理念である「人間尊重」「優良品の生産」「共存共栄」のもと、構成員に対しグンゼ行動規範の実践を推奨・支援し、良き企業市民としての責任を果たすとともに、社

会に必要とされ続ける企業を目指し、社会・環境の諸課題を当社グループの技術・資産・人材を生かしながら地域社会と連携して解決し、企業と社会の持続的発展につなげます。

### 2005年度の主な社会貢献活動の取り組み

支援・活動項目	実施場所	対象/人数	実施時期(年/月)
C-STEP 職業訓練支援	グンゼ物流(株)	就職困難者 1名	05/7
JICA(財)エネルギーセンター「集団研修:省エネルギー」第16回	宮津工場、グンゼ開発(株)	省エネルギー技術を学ぶ海外研修生 15名	05/7
(財)経済広報センター 教員の民間企業研修	綾部本社	京都市内 小・中・高教諭 20名	05/7
日本ボイラー協会主催「ボイラー実技・座学講習会」講師派遣	本工場、宮津工場 九州グンゼ(株)、グンゼ開発(株)	ボイラー試験受講者 約150名	05/7~8
日本政策学生会議(ISFJ) 環境政策提言中間報告に対するコメンテーター	神戸大学	西日本地区大学生 約40人	05/10
NPO法人こども環境活動支援協会(LEAF)「環境学習支援プログラム開発プロジェクト」	兵庫県武庫川女子大付属高等学校	西宮市の高校生 約200名	05/11
仮想企業経営プログラム「バーチャルカンパニー」プロジェクト	京都府大江高等学校	高校生 延120名	05/9、11、06/1
ジュニアブラ&肌着セミナー	埼玉県入間市養護学校 埼玉県桶川市養護学校 九州地区養護学校 関西地区養護学校 埼玉県春日部市立桜川小学校 東京都墨田区吾嬬第四小学校 大阪府堺市美原西小学校 埼玉県春日部市立飯沼中学校	学生および教諭・保護者および生徒 482名	05/7~06/2
肌着と健康セミナー	山梨県甲陵高等学校	高校生 40名	05/10
当社のCSR推進について	呉竹総合養護学校	全国の教諭	05/12
国土交通省近畿運輸局主催 かしこい車の使い方 プログラムへの参加	北海道支社、東北支社、宮津工場、久世工場、SOZ事業本部、九州グンゼ(株)、グンゼ物流(株)	構成員 69名	06/1~2
学生のための「就業実習:インターンシップ」受入	各事業所	事業所近隣の中・高校生	通年
地域の清掃・美化活動	各事業所	構成員 延1,810人	通年
工場見学の受入	各事業所	事業所近隣の小・中学校	通年
福利厚生施設などの貸し出し(体育館、グラウンド、スペースなど)	各事業所、グンゼ博物苑	近隣のスポーツクラブ団体、芸術文化活動団体など	通年



教員の皆さんの工場実習の様子



事業所周辺の清掃活動[津山グンゼ(株)]



武庫川女子大付属高等学校での環境教育



桜川小学校での「ジュニアブラ&肌着セミナー」



地元の小学生がThai Gunzeのスタッフに演奏をプレゼント

## 110周年記念 社会貢献活動 —ラブアース倶楽部の発足—

グンゼの是を実践し、持続可能な社会形成支援のため、有志による社会貢献プロジェクト「グンゼラブアース倶楽部」を発足しました。

- 会員構成:**グンゼグループの構成員(A会員)および退職者(B会員)の有志
- 主な活動内容:**会員から募った寄付金と会社のマッチングギフトシステム<sup>\*1</sup>により、会員が選んだNPO、NGO団体への寄付等を通じて社会貢献活動を推進します。

### 寄付のしくみ

A会員:毎月の給料と賞与から、100円を1口とし、1~99口までの範囲で任意の口数を年間14回拠出。  
B会員:別途定める銀行口座へ寄付。  
会 社会員寄付へのマッチングギフト。



### 寄付実施

会員アンケートを反映させて寄付先を決定し、支援  
AB会員が連携して活動する団体について、申請により支援

●具体的な実施状況についてはグンゼホームページに順次掲載していきます。

## 主な協賛・寄付活動

対象	寄付金・拠出品
EXPOエコマネー事業 (愛・地球博)	「エコマジック <sup>*2</sup> 」Tシャツ 1,100枚
日本経団連自然保護基金	30万円
産業廃棄物適正処理推進センター基金	7万円
東南アジア青年の船への協賛(10月)	①「エコマジック」Tシャツ 60枚 ②ストッキング 200足
(財)かごしまみどりの基金(11月)	「リベット」製ポーチ 250個

## 自然災害の復興支援

自然災害で被災された方々に対し救援物資の提供をはじめ、マッチングギフトシステムを活用した義援金による支援を行いました。

対象	マッチングギフト	救援物資
台風14号(宮崎・山口)	556,642円	—
アメリカハリケーンカトリーナ	445,964円	—
パキスタン地震	618,262円	靴下1,000足

## 海外での社会貢献活動

Thai Gunze Co., Ltd.(タイグンゼ)では、1998年から毎年6月に従業員の母校を中心とした近隣の小学校を訪問し、奨学金を給付するとともに(1,000パーツ/人×7名)、学用品や備品を寄贈しています。さらに、スタッフは、天井の雨漏りや廊下の危険箇所など傷んだ場所の補修や、故障した扇風機の修繕等を行い、子どもたちの大好きなメニューを用意して、ランチパーティを一緒に楽し



だりしていただきます。これまでに8校を訪問しました。

サッカーボールを寄贈



小学生と記念撮影

## Voice

### 子どもたちの 優しい笑顔がうれしい

小学校への訪問は、タイに来てもっとも心が洗われ、自分自身が優しくなれるひとときです。子どもたちとふれあい、一緒に身体を動かすうちに、拙いタイ語も通じてしまうから不思議です。子どもたちは皆、礼儀正しく、なんとも言えない

優しい笑顔で接してくれます。これからもこの活動を継続し、少しでも地域に貢献できるよう、より多くの小学校を訪問していきたいと思えます。



Thai Gunze Co., Ltd.  
三上 雅史

※1 マッチングギフト  
従業員が拠出した寄付金・義援金と同額を会社も拠出する制度。

※2 エコマジック  
P.27

# 環境方針と環境マネジメントシステム

環境経営を重要課題の一つとして捉え、海外事業所も含めたグループ全体で環境マネジメントシステム(EMS)を構築し、運営しています。

グンゼでは、1970年に「公害予防委員会」を設置以来、事業運営による公害予防をはじめ環境問題への取り組みを積極的に進めてまいりました。とくに近年の地球環境意識の高まりを受け、1997年6月には「グンゼ環境憲章」を制定し、会社としての環境に対する取り組み姿勢を社内外に明確にいたしました。この基本姿勢のもと、グンゼグループが取り組むべき環

境課題や目指すべき到達点を定めたアクションプラン(環境行動計画)を策定し、環境マネジメントシステムの構築をはじめ環境負荷削減活動に積極的に取り組んでいます。これらを進めるにあたっては、法規制遵守はもちろん環境会計など環境関連情報の積極的な開示に努め、環境保全効果を高める環境経営の実現に取り組んでまいります。

### グンゼ環境憲章

われわれは、かけがえのない地球を次世代、未来へと受け継いでいく責任を深く自覚し、真に豊かで、持続可能な発展する地球社会を実現するため、一企業市民として環境問題に積極的に取り組み、環境への負荷の軽減に努め、環境を維持、保全していかねばならない。このため、われわれは、環境に対する社会的責務を認識し、環境問題に取り組むべく、環境基本理念と行動指針を定める。

### 環境基本理念

われわれは、環境に優れた製品の提供を通じて、地球環境と調和し、全てが調和しうる、恵み豊かな地球社会の発展に貢献する。

### 行動指針

1. 事業活動の全ての場面において、環境負荷の低減に努める。
2. 法・条例の遵守はもとより、自主管理基準を設定し、環境管理水準の向上に努める。
3. 資源、エネルギーの効率的利用を図り、省資源・省エネルギーを推進する。
4. 廃棄物の発生量の低減に努めるとともに、発生した廃棄物の減量化・回収・再利用化を推進する。
5. 環境に優れた製品の研究開発、及び環境負荷を低減する生産技術、環境技術の開発に努める。
6. 構成員の環境意識の向上を図り、地域社会の一員として環境保全活動に協力、貢献する。
7. 海外事業の展開において、環境への配慮と環境技術移転に努める。
8. 万一、事故等による問題が発生した場合には、迅速に環境負荷の最小化に努める。

#### ※1 アクションプラン2007

目標達成状況の自己評価

 がんばりました

 もうひとがんばり

●CO<sub>2</sub>排出量は2005年度より運輸関係(社用車、部品・製品輸送関係)を含めて目標設定。

●2005年度より廃棄物の排出量を新たに目標に設定。

●廃棄物の排出量とは事業所から廃棄物として廃棄物処理業者に委託したものを言う。(リサイクル品を含む、有価物は除く。)

### アクションプラン2007※1:各年度の目標と2004/05年度の実績

	基準年度実績値	2004年実績	2005年実績	目標達成状況	2005年目標	2006年目標	2007年目標	2010年目標	
CO <sub>2</sub> 排出量削減 (トン)	107,995 (1990年)	106,036	108,983		104,950	103,850	102,800	99,355	
廃棄物	総発生量の削減 (トン)	10,234 (2004年)	10,234	10,613		9,978	9,729	9,485	9,000
	排出量の削減 (トン)	5,127 (2004年)	5,127	4,331		4,850	4,700	4,500	4,000
	リサイクル率 (%)	69% (2000年)	94%	96%		99%	99%	99%	99%
用水使用量 (千m <sup>3</sup> )	6,021 (2000年)	5,464	5,303		5,200	5,000	4,800	4,000	
PRTR対象物質 (トン)	385 (2000年)	251	151		242	234	225	200	
容器包装リサイクル委託量 (トン)	3,365 (1999年)	2,602	2,584		2,250	2,200	2,100	1,650	
EMS構築	-	-	-	-	-	-	全社統合完了		

## ISO 14001 認証取得

2004年度までにグンゼグループ国内すべての事業所で取得が完了し、2005年度は海外事業所の取得推進を図りました。海外の取得対象を17事業所に拡大し、2004年度末に取得が完了していた7事業所に加えて、新たに5事業所<sup>※2</sup>が取得し、合計12事業所となりました。

P.T. Gunze Socks Indonesia  
ISO 14001 認証取得



## 「エコ京都21」認定・登録<sup>※3</sup>

宮津工場と(有)福知山アパレルの環境負荷低減活動が評価され、「エコ京都21」に認定・登録されました。



## グリーン購入(事務用品)

事務用品54品目を選び、グリーン購入を行っています。2005年度は、グリーン購入率100%を達成しました。自動車やパソコンなどは集計から除外していますが、購入基準を定めて対応しています。

## 特定外来生物<sup>※4</sup>について

2001~04年度の間「特定外来生物」に指定された植物の販売実績がありますが、外来生物法施行後(2005年10月1日以降)は販売を中止し、お客様から注文があった場合は、法律の趣旨を説明し承諾を得た上で代替品を納入しています。

### ●規制対象植物販売実績(2001~04年度)

オオキンケイギク	5,131株
ボタンウキクサ	26株

## 社内環境監査の実施

2005年度は、初の試みとして監査員スキルアップコースを設け、社内を監査できる監査員の育成を図るとともに、5事業所で社内監査を実施しました。今回の監査では、ISO 14001規格が2004年度に改訂されたことを受け、2004年版への対応状況を中心に監査を行いました。その結果、不適合事項13件、改善の機会39件を提示し、是正処置を求めました。

- 不適合事項の事例
- 2004年版改訂のポイントである「影響を及ぼすことができる環境側面を特定する手順」が明確でなく、実施されていなかった。
- 事業所に適用される法規制の遵守を評価する項目の中で、管理者の届出、報告等にかかわる事項について漏れがあり、評価を行っていなかった。
- 改善の機会の事例
- とられた是正処置および予防処置の内容が適切であったか否かの有効性をレビューすること。
- 監視測定を行っている事項については、法令違反、緊急事態未然防止のため、自主基準値を定めて管理すべきである。
- ストロングポイントの事例
- 事業所の所在地(大阪府茨木市)が主催する環境フェアに出展し、事業本部の環境保全に対する積極的な姿勢を市民に広くアピールしている。
- 石油由来の原料を多く使用している中で、静電防止加工に使用している有機溶剤(メタノール)を水に変更して負荷の低減を図っている。



環境監査員スキルアップ研修会

## ※2 ISO 14001 新規取得事業所

- Dong Guan Guan Zhi Electronics Ltd.(中国)
- Gunze Electronics U.S.A. Corp.(アメリカ)
- 上海郡是高分子材料有限公司(中国)
- P.T. Gunze Socks Indonesia(インドネシア)
- 上海郡是新包装有限公司(中国)

## ※3 エコ京都21

「京都議定書」採択の地にふさわしい、環境を守り育てる事業所等の一層の拡大を図る目的で、環境配慮活動の実践により地球環境保全や循環型地域社会づくりに率先して取り組んでいる京都府内事業所等を「エコ京都21(京都・環境を守り育てる事業所等)」として認定・登録する制度。

## ※4 特定外来生物

海外起源の外来生物で、生態系、人の生命・身体、農林水産産業への被害を及ぼすか、及ぼす恐れのあるものの中から指定される。

## 事業活動にともなう環境影響と環境会計

大切な地球を次世代に引き継ぐために、  
事業活動にともなう環境への影響を把握し、環境負荷の低減に努めています。

目標達成状況の  
自己評価



がんばりました



もうひとがんばり

※1 車輦排出

営業および製品の輸送に使用した燃料からCO<sub>2</sub>排出量を算出。

### グンゼの事業活動と環境負荷

グンゼの事業活動は多岐にわたっています。主な環境への影響は、製品やサービスの提供と、それに必要なエネルギー・資源の消費、産業廃棄物、二酸化炭素や大気汚染物質、

化学物質の排出によるものです。

国内外の事業所において、環境への負荷をできるだけ少なくした事業活動を推進し、環境改善にも努めています。

#### INPUT

主要原材料(トン):	70,821	<14,705
天然繊維(トン):	6,738	<4,737
合成繊維(トン):	3,697	<2,561
樹脂(トン):	53,725	<6,672
フィルム(トン):	6,105	<670
ガラス(トン):	407	<65
鋼材(トン):	149	

エネルギー(k <sub>e</sub> ) (原油換算)	54,831	<15,273
電気(kWh):	136,094	<42,292
重油(k <sub>e</sub> ):	18,021	<2,908
灯油(k <sub>e</sub> ):	228	<1,040
LPGガス(トン):	872	<170
都市ガス(m <sup>3</sup> ):	635	<390

用 水(Fm <sup>3</sup> ):	5,303	<793
河川水(Fm <sup>3</sup> ):	913	<228
市 水(Fm <sup>3</sup> ):	338	<152
地下水(Fm <sup>3</sup> ):	3,942	<148
工業用水(Fm <sup>3</sup> ):	110	<265

化学物質(トン):	151
(PRTR対象物質)	

資 材(トン):	4,579	<3,838
副資材(トン):	1,461	<1,813
荷材・包材(トン):	3,095	<1,953
その他(トン):	23	<72

#### OUTPUT

製 品(トン):	46,762	<13,558
織 維(トン):	10,810	<6,603
フィルム(トン):	30,282	<6,327
その他(トン):	5,670	<628

●生産設備は除外

地球温暖化物質の排出		
CO <sub>2</sub> 排出量(トン):	108,983	<28,881
生産排出(トン):	101,076	<27,746
車輦排出*1(トン):	7,907	<1,135

大気汚染物質の排出		
NOx(トン):	215.5	<9.3
SOx(トン):	22.3	<20.6
ばいじん(トン):	5.0	

水質汚濁物質の排出		
廃水量(Fm <sup>3</sup> ):	2,942	<337
BOD(トン):	13.4	<2.0
COD(トン):	45.9	<7.9
SS(トン):	22.7	<0.8

化学物質(PRTR対象物質)	
廃棄物としての移動(トン):	17.7
環境への排出量(トン):	66.0
(水系への排出: 16.9)	
(大気への排出: 49.1)	
(土壌への排出: 0)	

廃棄物総発生量(トン):	10,613	<2,458
リサイクル量(トン):	10,193	<835
埋立・焼却量(トン):	420	<1,623

< >内は、海外事業所の数値です。

## 環境会計

### 2005年度の集計結果

2005年度の環境保全コストは投資額2億3,000万円(対前年7,400万円減)、費用額12億2,600万円(対前年1億3,900万円増)となりました。環境保全効果は11億5,000万円(対前年1億2,400万円増)となっています。

### 環境保全コスト(海外含む) 単位:百万円

項目	2004年度		2005年度	
	投資額	費用額	投資額	費用額
事業エリア内 環境保全コスト				
公害防止対策	264	249	142	305
地球環境対策	18	395	35	394
資源循環利用対策	22	203	48	251
管理活動コスト	—	204	5	174
その他コスト	—	70	—	136
合計	304	1,121	230	1,260

#### ●投資額

2005年度は、アスベスト除去(5,700万円)および水質汚濁・大気汚染防止を中心に、公害予防費として1億4,200万円の投資を行いました。内訳として、公害防止対策以外に、廃棄物(廃プラ)の再資源化(4,600万円)と省エネ温暖化防止対策(3,500万円)が含まれます。

#### ●費用額

公害防止対策費用3億500万円のうち、1億7,870万円が水質汚濁防止のための費用です。地球環境対策費3億9,400万円のうち、コージェネレーションシステム(以下「コージェネ」)のリース、燃料費および運転管理費用が前年とほぼ同額の2億8,730万円を占めています。管理コスト1億7,400万円のうち、1億円が環境マネジメントの維持管理の費用です。環境にやさしい製品の研究開発費用は6,800万円です。

### 環境保全に伴う経済効果(海外含む) 単位:百万円

	2004年度	2005年度
廃棄物処理の節減効果	78	187
資源削減効果	106	51
省エネルギー効果	56	80
廃水処理実施効果	478	509
コージェネ・熱回収効果	308	323
合計	1,026	1,150

#### ●環境保全効果

廃水処理設備設置による下水道費の削減と、コージェネおよび廃棄物の再資源化による売却益等により11億5,000万円の効果を計上しました。

### 主な環境パフォーマンス

	環境パフォーマンス			
	2004年度		2005年度	
	国内	海外	国内	海外
エネルギー使用量(k $\rightarrow$ 原油換算)	52,699	14,916	54,831	15,273
CO $_2$ 排出量(トン)	106,036	28,286	108,983	28,881
水の使用量(千m $^3$ )	5,464	713	5,303	793
廃棄物発生量(トン)	10,234	2,335	10,613	2,458
リサイクル率(%)	94	66	96	66

#### ●地球温暖化対策

インバーター、省エネ機器の導入などの対策にもかかわらず、エネルギー消費型生産の増加によりCO $_2$ の総排出量は増加しました。売上原単位で比較すると対前年横ばいとなっています。

#### ●用水使用量削減

用水の循環使用や染色の低浴比推進等により、年々減少していますが、目標にはわずかに届きませんでした。

#### ●廃棄物削減

分別の見直しや有効利用を進めた結果、廃棄物の処理費用は大幅に減少し、リサイクル率も96%まで向上しました。一方、有価物を含めた総排出量は増加しました。

### 集計の基本となる事項

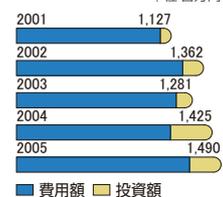
対象範囲:グンゼ株式会社、国内グループ会社28社および海外グループ会社15社

対象期間:2005年4月1日~2006年3月31日

項目分類:2002年3月に公表された環境省「環境会計ガイドライン」に沿って分類・集計。

経済効果:廃水処理実施効果とは、廃水処理設備を設置していることにより、下水道費を払わなくてもよくなった費用を計上。特定の環境対策を行わなかった場合に想定される賠償額などのリスク回避効果(みなし効果)は採用していない。

環境保全コスト(費用額と投資額の推移)(海外含む) 単位:百万円



環境保全に伴う経済効果(海外含む) 単位:百万円



## 環境負荷低減への取り組み

コージェネシステムの導入をはじめ、独自の技術によりCO<sub>2</sub>やVOCの排出削減に取り組むとともに、資源の循環・有効活用に努めています。

### ※1 コージェネレーションシステム

「Co(共同)エネルギーをGeneration(発生)」させるシステム。発電時に原動機から発生する排熱を回収して、冷暖房や給湯、蒸気などの用途に有効利用することで省エネを可能にし、CO<sub>2</sub>排出量の削減を実現。

### ※2 CO<sub>2</sub>排出量(国内)

年度	製造・研究	事務所	車輛
90	85,205 (補正值8,583)	—	—
01	90,091	—	—
02	88,146	3,740	8,362
03	89,466	3,576	8,930
04	92,644	4,929	8,463
05	96,159	4,917	7,907

### CO<sub>2</sub>排出量(海外)

年度	製造・研究	車輛
90	—	—
01	—	—
02	21,089	—
03	22,715	—
04	27,417	869
05	27,746	1,135

### ※3 モーダルシフト

貨物の輸送手段の転換により省エネ対策を図ること。具体的には、トラック輸送を鉄道や船舶による輸送に代替することが考えられる。

### ※4 スクラバー

水や液体を洗浄液として排ガス中の粒子を捕捉する排ガス洗浄装置。洗浄液と排ガスの接触面積を大きくとるために、内部にプラスチックなどの充填材を入れ、洗浄液を噴霧して除去する方法がもっとも一般的。

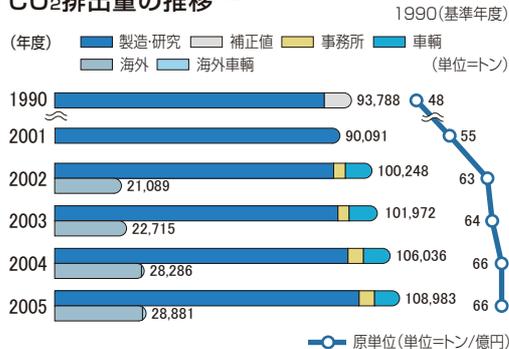
### CO<sub>2</sub>排出量削減への取り組み

地球温暖化防止のため、コージェネレーションシステム※1(以下「コージェネシステム」)の導入や省エネ活動に取り組んでいます。2005年度はコージェネシステムにより4,925トンのCO<sub>2</sub>削減、省エネ活動により原油換算で2,199klのエネルギー使用量削減を達成しましたが、エネルギー消費型の生産の増加により、CO<sub>2</sub>排出量は国内全体で108,983トンとなり、前年度と比較して2,947トン(2.8%)の増加となりました(車輛含む)。売上高原単位は横ばいです。今後は、既存の燃料の見直しや、コージェネシステムの導入拡大などでCO<sub>2</sub>を少しでも削減できるよう努めます。



コージェネシステム設置工事中  
[江南工場]

### CO<sub>2</sub>排出量の推移※2



●車両排出量は2002年(海外については2004年)から調査を開始。

### 大気汚染防止に向けての取り組み

#### 硫黄酸化物と窒素酸化物排出削減

染色や暖房で使用するボイラーの燃料は、重油やガスを使っているため、燃焼時に硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)や窒素酸化物(NO<sub>x</sub>)、ばいじんが発生します。SO<sub>x</sub>排出量削減のため、硫黄濃度0.1%以下の重油を使用しています。2006年度に江南工場が導入を計画しているコージェネ設備では、より環境負荷の少ないガスを燃料として使用します。

現在、江南工場でガス・コージェネシステムの設置工事を行っており(2006年8月完成予定)、守山工場、九州グンゼ(株)、東北グンゼ(株)に続き4番目の導入となります。

#### 物流の省エネへの取り組み

社用車を新たに導入する際は、三ツ星以上の低燃費・低排出ガス車を基準としています。製品輸送効率を上げ、少しでもCO<sub>2</sub>の削減に努めるとともに、回収てんぷら油を精製したバイオ燃料の利用にも取り組んでいます。今後は、モーダルシフト※3も視野に入れ、さらなる効率化を検討いたします。

#### VOC削減への取り組み

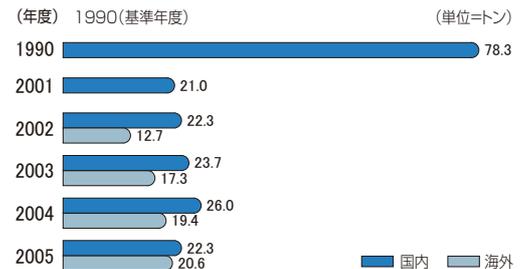
光化学スモッグの原因の一つと考えられている揮発性有機溶剤(VOC)の削減に努めています。プラスチックカンパニーでは、従来の有機溶剤(メタノール)から水への切り替えにともなう設備の改造を2004年度より順次行っています。従来に比べて約80%削減しました。

江南工場と綾部エンブラ(株)では、生産工程から生じる溶剤の排ガスをスクラバー※4で処理しています。処理後の廃液は再生業者が溶剤を回収し、再使用します。



スクラバー[江南工場]

#### 硫黄酸化物(SO<sub>x</sub>)排出量の推移



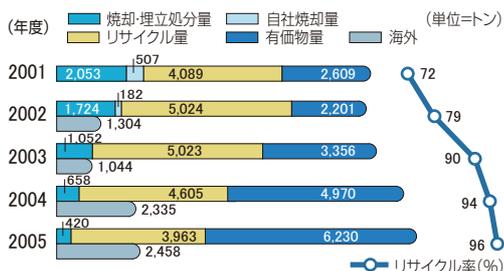
#### 汚染賦課金※10負担金額(グンゼグループ)

年度	2003年	2004年	2005年
金額(万円)	15,815	15,418	14,293

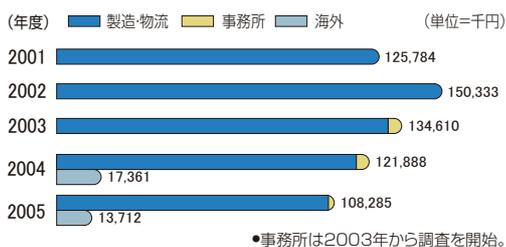
## 廃棄物<sup>※5</sup>の削減と有効利用

2005年度、廃棄物のリサイクル率(有効利用率)は目標の99%には届きませんでしたが、国内事業所は96%まで向上しました。しかし、事務所のリサイクル率は21%に留まっています。一般廃棄物の処理は行政への依存度が高いため、一部を除き、有効利用は進みませんでした。プラスチック関連の生産増にとともに、総発生量は増加していますが、分別の徹底と減量化への取り組みが進み、廃棄物としての処分量は大幅に減少しました。廃棄物処分費用についても2002年度以降、大幅に減少しています。

### 廃棄物処理内容の推移



### 廃棄物処分の費用



## 2005年度のSOx、NOx測定結果

### ボイラー

	ばいじん(g/m <sup>3</sup> )	NOx(ppm)	SOx(k値)
規制値	0.25~0.3	180~230	8.76~17
測定結果	0.001~0.027	36~112	0.04~1.63

※地域により規制値が異なります。

### コージェネシステム(ディーゼル)

	ばいじん(g/m <sup>3</sup> )	NOx(ppm)	SOx(k値)
規制値	0.1	950	8.76
測定結果	0.002~0.027	687~870	0.13~0.78

※地域により規制値が異なります。

## 環境浄化微生物による汚泥発生量の削減

愛媛県工業技術センターで開発された環境浄化微生物「えひめ」<sup>※6</sup>を導入し、活性汚泥処理施設<sup>※7</sup>で発生する汚泥<sup>※8</sup>の量を約60%削減しました。環境浄化微生物は食品関係の廃水処理に多く使用されていますが、今回は、繊維の染色・精練等の工程から排出される廃水への利用を目的に、久世工場で浄化微生物の培養と処理条件のテストを実施し、条件設定を行った上で導入に踏み切りました。この微生物は、汚泥の減量化や処理水質の向上だけでなく、臭気抑制や有機物質の分解などに大きな効果が期待できるため、順次、廃水処理に導入を進めます。



(上)「えひめ」(乳酸菌)  
(下)久世工場培養設備

### 汚泥引抜量とMLSS濃度<sup>※9</sup>



### ※5 廃棄物の定義

グンゼでは、廃棄物とは「自社で不要なもの」と定義しており、有価物(原材料)として売却しているものも含めて廃棄物として管理している。

### ※6 環境浄化微生物

酵母菌、乳酸菌、納豆菌を主体に、糖蜜などで発酵培養させた酵素を含む複合微生物。

### ※7 活性汚泥処理施設

生物の力で有機性汚濁物質を浄化。グンゼの廃水処理の基本となる設備。

### ※8 汚泥

廃水処理(活性汚泥)後に出てくる泥状の排出物。

### ※9 MLSS

Mixed Liquor Suspended Solidsの略。廃水処理の汚泥濃度(生物など有機物の量)。

### ※10 汚染賦課金

燃料に使用している重油から排出される硫黄酸化物(SOx)の量に比例して支払うもので、公害健康被害者の救済に使用される。

### ※11 低公害認定自動車

☆:NOx、HCを25%以上低減  
☆☆:NOx、HCを50%以上低減  
☆☆☆:NOx、HCを75%以上低減

●HC:未燃炭化水素  
●基準値:2000年排出ガス規制値

## 低公害車への切り替え

社用車のリース契約更新時に順次、低公害車(三つ星以上)への切り替えを進めています。2005年度は、24台を三つ星以上に切り替えました。

### 低公害車<sup>※11</sup>導入実績(2006年3月現在)

	総保有台数	★ 良	★★ 優	★★★ 超	ハイブリッドカー
台数	326	49	10	107	8
比率	100%	15%	3%	33%	2%

## 環境負荷低減への取り組み

大切な水資源を有効に使い、できるだけ元の状態に近づけて河川に還しています。  
アスベスト対策やPCB管理を含む化学物質管理の徹底を図っています。

### ※1 一般的な水質汚染指標

**BOD(Biochemical Oxygen Demand: 生物化学的酸素要求量)**

微生物が水中の有機物を酸化分解する際に使用する酸素の量。主に河川の汚濁指標として使用。

**COD(Chemical Oxygen Demand: 化学的酸素要求量)**

水中の汚濁物質が化学的に酸化されるときに必要な酸素の量。主に海域や湖沼の汚濁指標として使用。

**SS(Suspended Solids: 浮遊物)**

放流水1中に含まれる浮遊固体物質の量(mg/)。

### 透視度

人が目視で確認できる透明度(水中での視認距離)で、cmで表示。

### ※2 着色度

処理水を水道水で希釈して高さ30cmの透視度計に入れ、水道水と比較して同じように見えたときの希釈倍率。数字が小さいほど、色が薄いことを示す。グンゼ独自の指標。

### ※3 環境浄化微生物「えひめ」

 P.24

### 用水・廃水に関する取り組み

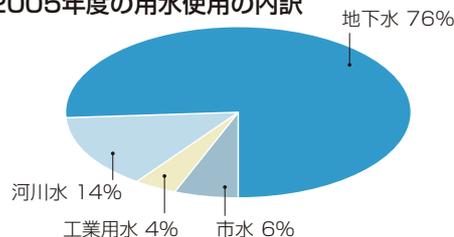
#### 水質汚濁防止に向けての取り組み

グンゼでは、繊維の染色やその他の加工に多くの水を使用しています。そのため、放流する水に関しては法基準の遵守はもちろん、自主基準を設定して、国内・海外ともに適用しています。BOD、COD、SSなど水質汚染指標<sup>\*1</sup>の管理以外に、着色度<sup>\*2</sup>という独自の基準を設け処理を行っています。2005年度も引き続き、法基準、自主基準ともにクリアしました。

#### 用水使用量削減の取り組み

グンゼでは肌着・ストッキング・マシン糸の染色や空調・冷却などに大量の水を使用しています。特に、地下水の割合が76%と高いため、現在、冷温水の循環使用、空調に使用した冷却水の染色用水への再利用、設備からの漏水対策など、用水使用量削減に向け努力しています。

#### 2005年度の用水使用の内訳



#### 廃水処理運転管理

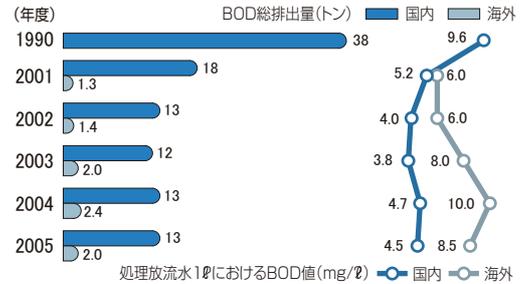
東北グンゼ(株)では、生物処理で一日平均1,000トンの排水を処理して河川に放流しています。処理される廃水の内訳は、生産廃水(染工、染色工程からの排水)が約92%、残りが生活系の廃水(食堂排水、トイレ浄化槽排水、共同浴場排水等)です。近年、高付加価値加工の増加にともない、加工処理用の薬品や染料が多種多



東北グンゼ(株)廃水処理運転管理チーム

様化し、廃水処理への負荷も増大しています。生物処理における最重要ポイントは、生物が元気で過ごす環境を整

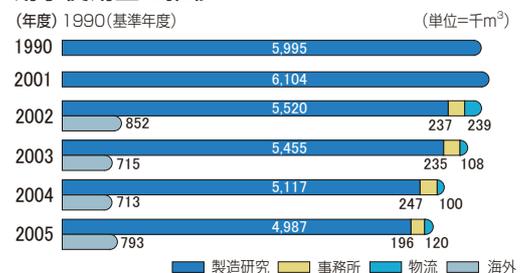
#### BOD排出量と排水BOD濃度の推移



#### 水質管理基準と2005年度実績

	単位	国の基準	自主基準	実績値	
				国内	海外
BOD	mg/l	40~120	10以下	4.5	8.5
COD	mg/l	40~120	30以下	15.6	23.0
SS	mg/l	40~150	10以下	7.7	5.0
透視度	cm	なし	50以上	76.9	74.0
着色度	倍	なし	30以下	25.4	14.5

#### 用水使用量の推移



えることです。生産現場では、薬品回収・再利用や使用量削減等による廃水処理への負荷軽減の取り組みが継続的に行われていますが、加工内容の変更や使用薬品の切り替え等、生産現場からもたらされる情報は、運転管理のトラブル防止の上で欠かせないものです。

今春より環境浄化微生物「えひめ」<sup>\*3</sup>の培養試験を進めてきましたが、これは、地域の食品加工会社から廃出されるサクランボシロップを糖分原料として安価で購入し、活用しています。この微生物を処理槽に投入し、活性化を図ることで、汚泥発生量の削減と、浄化処理の向上による省エネルギー(曝気空気量の減少)を目指します。

## 化学物質管理

### PRTR※4管理

PRTR対象化学物質の総取扱量は毎年減少しており、2005年度は90トン削減しました。非塩ビ化の推進や非該当物質への転換などにより使用量が減少し、対象物質も前年度の41物質から39物質に減少しています。

### PRTR対象物質取扱量と移動量の推移(単位:kg)

年度	取扱量	製品への使用量	廃棄物としての移動量	環境への排出量	無害化およびリサイクル量
2001	359,090	221,662	37,882	90,324	9,222
2002	334,859	189,764	33,814	88,127	23,254
2003	285,218	171,962	18,463	75,153	19,640
2004	250,814	122,818	14,879	93,790	19,326
2005	151,116	49,863	17,682	65,977	17,594

### PCB管理

PCB入り機器は日本環境安全事業(株)での処理が一部始まり、グンゼグループでは2005年度に登録が完了し、順次処理していきます。ただし、低圧コンデンサーや安定器など今回の処理計画から除外されている機器については今後も適切な管理を行っていきます。登録にあたって機器の再調査を行った結果、コンデンサー1台と蛍光灯の安定器36台が非該当と判明しましたので修正しています。

### PCB入り機器の処理状況

PCB機器	保有台数	登録台数	登録対象外
コンデンサー(高圧)	195台	194台	1台
コンデンサー(低圧)	77台	12台	65台
その他(オイル、ウエス)	3缶	2缶	1缶
蛍光灯の安定器	1,353台	—	1,353台

### 微量PCB※5混入の可能性がある機器台数

	トランス	コンデンサー	その他	計
保有台数	398台	146台	39台	583台
調査完了台数	172台	17台	9台	198台
PCB混入機器	47台	4台	1台	52台

### アスベスト対策※6

2002年度以降、保温材、パッキン等の使用を禁止し、代替品への切り替えを進めるとともに、撤去した機材は特別管理廃棄物として適正に処理を行っています。また、作業者の安全確保と環境中への飛散防止のため、「アスベスト安全教育」を実施して



アスベスト除去処理[津山グンゼ(株)]

ます。

さらに、建物の吹き付けアスベストについても、職場環境の安全性確保と地域環境の負荷低減に向け、計画的に除去を行っています。2005年度は津山グンゼ(株)と本工場で除去を行いました。さらに、グンゼグループすべての建物の再調査を行い、調査漏れがないことを確認しました。

### ●石綿検診の実施

アスベスト取扱関連業務に従事したことのあるグンゼグループ構成員および配偶者に対し、石綿検診を実施しました。合計160名が受診し、異常は発見されませんでした。今後も継続して定期検診を実施していきます。なお、退職した当該構成員に対しても健診の案内をしています。

### 土壌・地下水汚染

現時点で、土壌・地下水汚染は発見されていません。今後も、用途変更時に詳細調査を行っていきます。

### 環境事故について

2006年3月6日、エルマ(株)守山工場の屋根の防水塗装工事を行っていた委託業者が降雨時に塗装工事の養生を施さずに作業を中止したため、未乾燥の水溶性塗料が雨樋を通じて側溝に流出しました。発見が早かったため、河川への流出はありませんでした。流出量は約2ℓですが、側溝から泥を含め約8m<sup>3</sup>回収しました。

### ※4 PRTR

Pollutant Release and Transfer Registerの略。化学物質の排出量等を把握する仕組み。

### ※5 微量PCB

従来のPCB使用絶縁油とは異なり、1989年以前に製造された絶縁油に微量のPCBが混入している可能性があり、この絶縁油を使用している機器は分析調査する必要がある(混入の原因は特定されていない)。

### グンゼの対応

グンゼでは、2004年度より微量PCB混入の可能性のある機器の調査を行っている。現時点で583台中198台の調査が完了し、52台で微量PCB混入を確認。PCB機器と同様、適切に管理していくとともに、未測定機器についても、計画的に調査を進める予定。

### ※6 アスベスト対策について

グンゼはアスベストの製造は行っていないが、過去、機械設備の蒸気配管に一部アスベストを使用していた。2002年から新規使用を禁止し、代替品の使用を進めている。

# グンゼは環境や人にやさしいものづくりとサービスで社会貢献を果たします。

※1  
**ウォームビズ**  
 20℃設定のオフィスでも、あたたかく快適かつ働きやすいスタイルで過ごせるよう、素材と機能にこだわった肌着。

**クールビズ**  
 28℃設定のオフィス環境でも衣服内環境を快適に保てるよう、素材と機能にこだわった肌着。

**エコマジック**  
 洗剤を使わなくても水だけで汗や皮脂汚れが落ちる肌着。ナノテク技術と環境負荷低減への期待が大きく評価され、日刊工業新聞社による「2004年(第47回)十大新製品賞」を



※2 **円偏光タッチパネル**  
 太陽光の反射を防ぎ、屋外でも表示がきれいに見える特長を持つ製品。

※3 **アドバンスド・ディスプレイ・オブ・ザ・イヤ**  
 「ファインテック・ジャパンフラットパネルディスプレイ研究開発・製造技術展」の併催企画で、フラットパネルディスプレイ関連製品の中から特に優れた製品に授与される賞。

## アパレル事業

### メンズ&キッズカンパニー、レディス&レッグカンパニー

●「ウォームビズ」、「クールビズ」対応インナーなど環境配慮型製品※1の提案  
 着るだけであたたか、ひんやり感がある、肌着やホームウェアを積極的に開発・提供し、「チーム・マイナス6%」活動に参加・協力しています。



着るだけでひんやり「アクティコットドライメッシュ」



着るだけであたたか効率保温「Flaty」

●ユニバーサルデザインの視点でつくった肌着  
 着る人の声から生まれた愛情らくらく肌着「これ、着やすい!」



## 機能ソリューション事業

### プラスチックカンパニー

●環境にやさしい非塩ビ製品  
 グンゼは1980年代、日本で初めて収縮ラベル用の非塩ビ製品を開発して以来、今日まで展開を続けています。

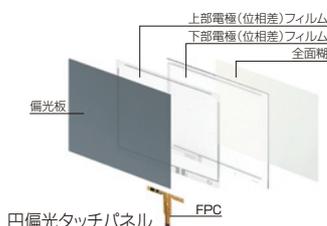


●ユニバーサルデザインの視点で作ったパッケージ  
 易開封ヒートシールOPPフィルム「ファンシートトップ®」  
 「すう〜と開いて♪  
 みんなにやさしい♪  
 パッケージ」を開発、提供しています。



### 電子部品事業部

●目にやさしく見やすいタッチパネルの開発  
 電子部品事業部が開発した「円偏光タッチパネル※2」は、「アドバンスド・ディスプレイ・オブ・ザ・イヤ」※3 2006の部品・材料部門の優秀製品に選ばれました。この製品は、主にデジタルビデオやデジタルカメラに使用されています。



### 研究開発センター

●動物にやさしい三次元培養皮膚モデル「ビトロライフ・スキン」  
 動物による皮膚毒性試験の代替を目的に開発されたヒト皮膚モデルです。このモデルを使用することにより、動物実験を行わずに迅速かつ簡単に低コストで試験を行うことができます。従来、動物実験以外で評価することが困難だった繊維等の安全性試験もこのモデルによって行うことができます。





グンゼは「エコプロダクツ」に毎年、環境配慮型製品を出展しています。



## ライフクリエイト事業

### グンゼスポーツ(株)

- 高齢者を元気にする  
スポーツプログラムの提供

グンゼスポーツ(株)は、高齢者の元気を作ることが持続的な社会の形成に役立つと考えています。「ちゃんとした運動を、しよう」をテーマに、①安全第一②無理せずマイペース③効果を実感できる、シニア層に向けたプログラムを提供し



ています。

腰痛・膝痛の方を対象とした機能改善教室



ヨガクラス

### グンゼグリーン(株)

- 地球にやさしい屋上緑化システムの提供  
デイルグリーンラムダ工法

グンゼグリーン(株)では、工場や建物の金属折板屋根を簡単に、しかもローコストで緑化できるしくみを提供しています。また、育成容器に梱包資材の機能を持たせ、ごみの発生を大幅に低減しています。

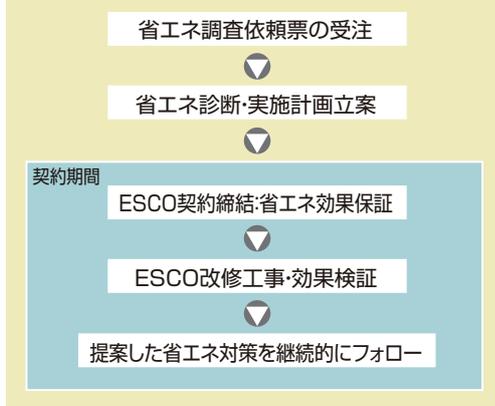


### グンゼ開発(株)

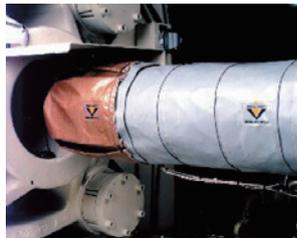
- 省エネ対策に有効なESCO事業

グンゼ開発(株)では、グンゼ110年の歴史の中で培われた省エネ技術や経験を活かし、地球温暖化防止に実効性のあるESCO事業<sup>※4</sup>をお客様に提供しています。

#### ESCO事業による包括的なサービスの流れ



### グンゼエコカバー<sup>※5</sup>



### ※4 ESCO事業

エネルギー・サービス・カンパニー (Energy Service Company) の頭文字を取って「エスコ」と読む。ビルや工場などの建物の省エネ化に必要な「技術」「設備」「人材」「資金」などすべてを包括的に提供するサービス。

### ※5 グンゼエコカバー

プラスチック射出成形シリンダーのヒーターに取り付けて使用する断熱カバー。断熱性に優れ、ヒーター電力を約20%~50%削減する省エネ効果を発揮。

### ※6 タッチパネルの反射率

反射率が高いと、画面が見にくい。反射率が低く、透明率が高いほど見やすく、目にやさしい画面になる。

## Voice

### 円偏光タッチパネル開発にあたって

開発着手は、約2年前。「低反射<sup>※6</sup>」「軽量」「高透過」で「より目にやさしく、より操作が簡易で便利」を目指し、プロジェクトチームが一丸となり日夜、夢中で材料検証・製品試作・製品検証に取り組みました。当時は大きなクレームが2件発生した直後であり、何とか挽回しなくてはという気持ちと、完成納期のはざままで精神的にしんどかったことが記憶に残っています。

しかし、多くの皆様のご支援のおかげで本製品を完成することができました。消費者の方々に満足いただける製品が提供できることを誇りに思います。今後も、誰もが使いやすい、お客様の要求を先取りした製品を開発し続けていきたいと考えております。

電子部品事業部  
技術開発センター  
商品開発課  
人見 章洋





社団法人  
日本消費生活アドバイザー・  
コンサルタント協会

常任理事  
西日本支部長

三沢 邦子

企業の内外を問わず、近年、企業の社会的責任に対する関心が高まっている。多くの企業が、社会に対して何をなすべきかを問い直し、社会に対して果たすべき責任を明らかにしようと報告書を出すようになった。消費者も頻発する企業の不祥事を目の当たりにして企業の倫理的な責任を問うようになった。

そうした潮流の背後には、グローバル化や科学技術の発達等により複雑化・不透明化した社会、つまり企業が消費者を、消費者が企業を見るのが難しくなった社会がある。消費者は企業の実態を見ることができないし、企業が提供する製品の正体も身元も知ることができない。身近な食品ですら、BSEの牛肉も、農薬野菜も見分けることができない。ましてや電子レンジや携帯電話の安全性については皆目分からない。消費者は企業の提供する製品を信用して受け入れるしかないのである。

こうした新しい時代において、企業がその社会的責任を果たすためには、企業経営を透明にしてステークホルダーとの率直な対話を行い、さらに各ステークホルダーからの他者評価を企業経営に反映させることが肝要であろう。企業のCSR報告書の意義はこのあたりにあると考える。

ゲンゼのCSR報告書を見て、総体的には、非常に真摯にCSRに取り組んでいる、という印象を受けた。書かれている内容には透明性・信頼性があり、また具体的なデータを多用してわかりやすい報告書になっている。しかし、もう少し企業の前向きな姿勢を打ち出したらどうであろうか。「地域社会との共存共栄」を目指すゲンゼの堅実で不易の社是に、「地球・社会との共存」という現代の焦眉の課題を取り込んで企業経営や製品開発に努めているという意欲が感じられる報告書であってほしい。

### 消費者対応について

消費者が企業に望む報告書は「消費者が知りたいと思っている情報を出してくれているかどうか」「消費者の声や意見に答えてくれているかどうか」「消費者がゲンゼに何を期待しているのかを、まじめに知ろうとしているかどうか」など、企業の消費者志向がそこから読みとれる報告書である。「消費者志向」経営とは、消費者の望むものは何でも提供しようとい

うことではなく、いくら消費者が望んでも他のステークホルダーにとってマイナスになるものや環境に負荷を与えるものは提供しないという企業の理念や、消費者の「企業やその製品に対する安全・安心感」を裏切らないという消費者との間の信頼関係がある経営である。不透明な社会で「消費者から選ばれるメーカー」になるには、なによりも消費者との間に信頼関係を築くことが第一である。そしてその信頼関係は、日本的な無条件の信頼関係ではなく常に両者の間に緊張感をはらんだ信頼関係であってほしい。ゲンゼのお客様相談室については、その位置づけは描かれてはいるものの、消費者とどのような対話がありどのような意見交換があったのか具体的な状況が見えてこない。クレームの改善例がでていたがクレームの改善はあたりまえのことであろう。もっと前向きに、このような提案があってそれを製品に反映させたという例も載せていただければ消費者の共感を得ることができ、企業に対する信頼性の向上や親しみやすさにつながるであろう。

### 環境への取り組みについて

ゲンゼの環境報告書は、豊富なデータやグラフでわかりやすい工夫がなされており環境への取り組みの現状は把握できる。しかし、数値だけではなく、なぜ環境保全が必要なのか、なぜ森林の保全が大切なのかなど、読む人に訴える言葉が必要である。各社からさまざまな環境報告書が出されているが、消費者に共感を呼び起こす報告書とは環境問題にどのように取り組んでいるかその熱意が行間から伺えるものであろう。

環境負荷低減のプランは、それ自体としては評価できる。しかし、消費者の目でみれば、自社のCO<sub>2</sub>の排出量を減らすよう努力するのは当然、有害化学物質を出せばもれなく回収するのも工場で汚染された水を元の状態に戻して河川に返すのも、つまりマイナスをゼロに戻すのは企業の社会的責任としての当然の義務であり、何ら誇るべきものではない。環境問題についてゲンゼに望むのは、もう一歩踏み込んでゼロをプラスにする事業にもっと力を入れていただきたいということである。たとえば、青少年への環境教育を支援する基金を作るなど、個人にはできないが企業ならできることがあるのではなかろうか。

企業に社会的責任が問われるのと同様に、社会の構成員であり日々消費活動を行っている消費者にも報告書こそ出さないうべき社会的責任はある。消費者利益と企業活動の調和を目指しつつ両者がより良い関係を結ぶことを期待したい。



●表紙のことば●

雲の上にはいつも青く澄んだ空があります。

わたしたちが生活しているこの地球上で  
これまであたり前だと思っていたことが  
だんだんあたり前ではなくなってきています。

この大事な地球がいつまでもあたり前であり続けるために  
グンゼはできることからひとつずつ取り組みます。

# GUNZE

## グンゼ株式会社

大阪本社 〒530-0001大阪市北区梅田1丁目8番17号大阪第一生命ビル  
お問い合わせ先:CSR推進室  
TEL(06) 6348-1323 FAX(06) 6348-4823  
URL:<http://www.gunze.co.jp>